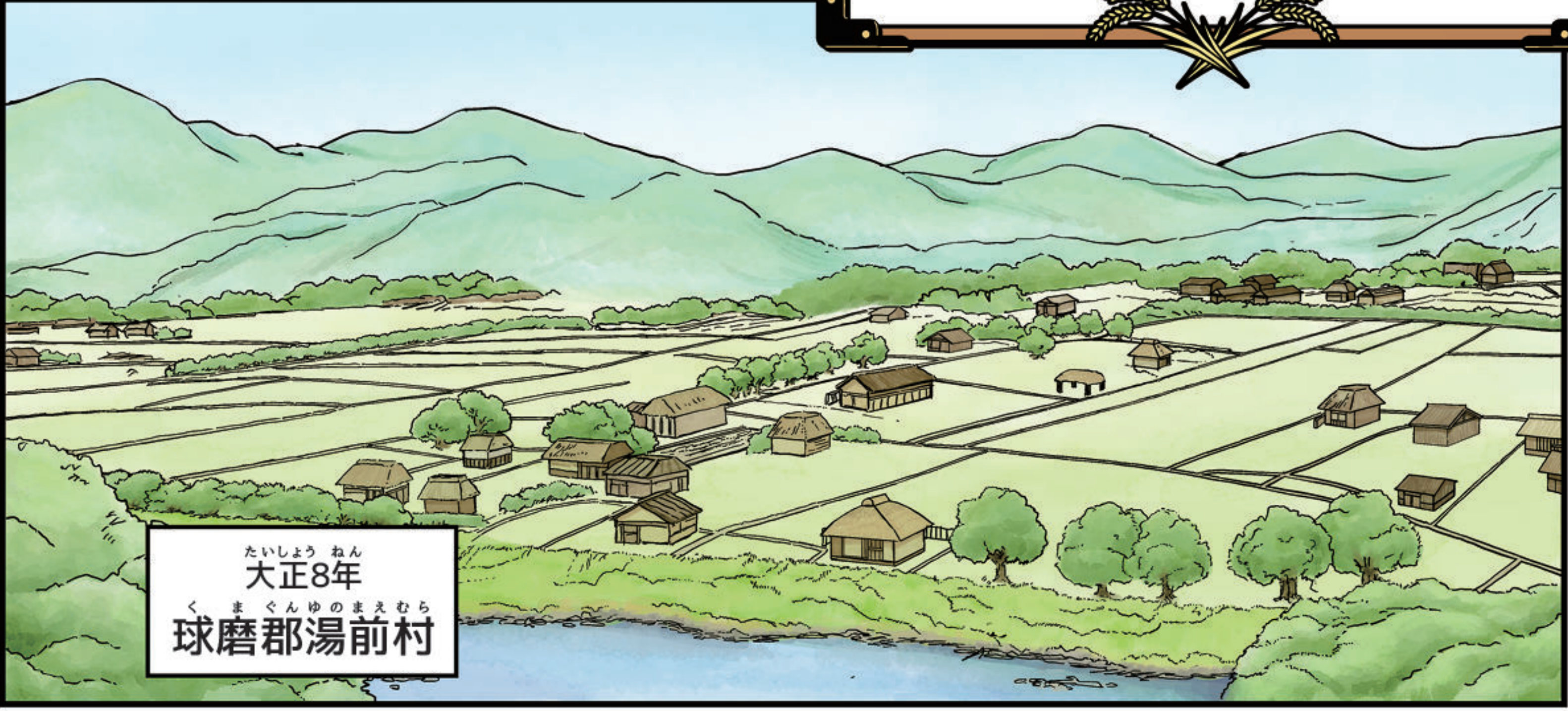
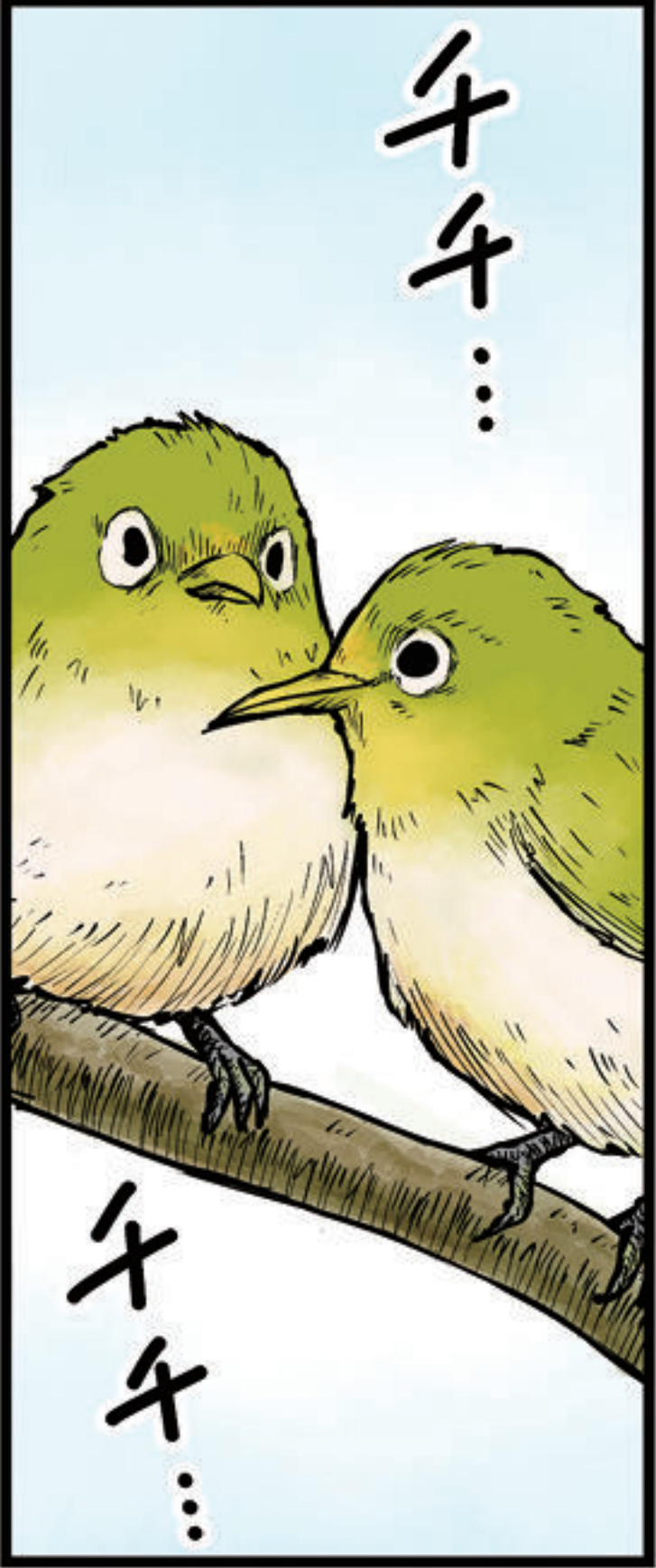
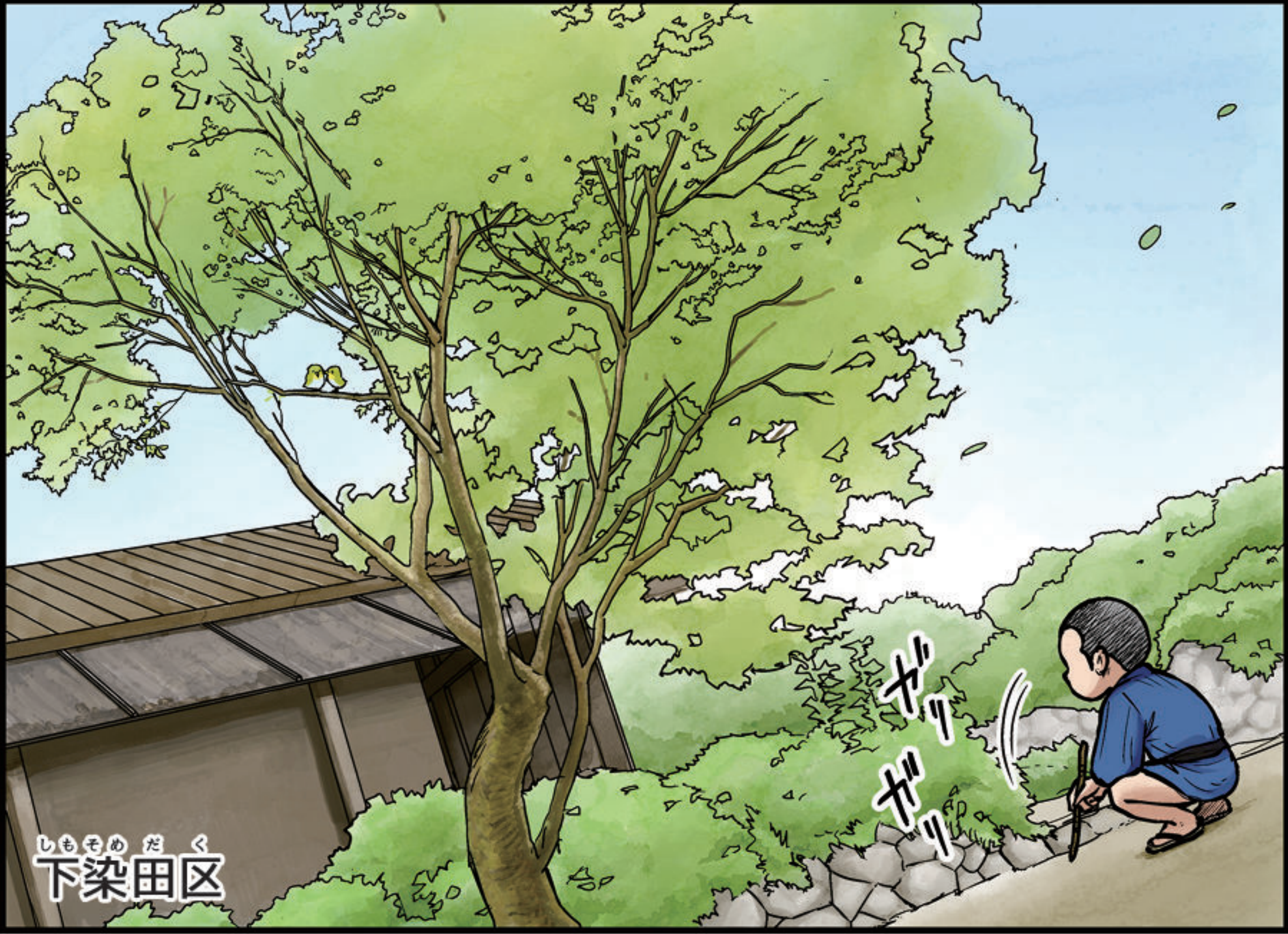


だい しょう しょうねん じ だい  
**【第1章 少年時代】**

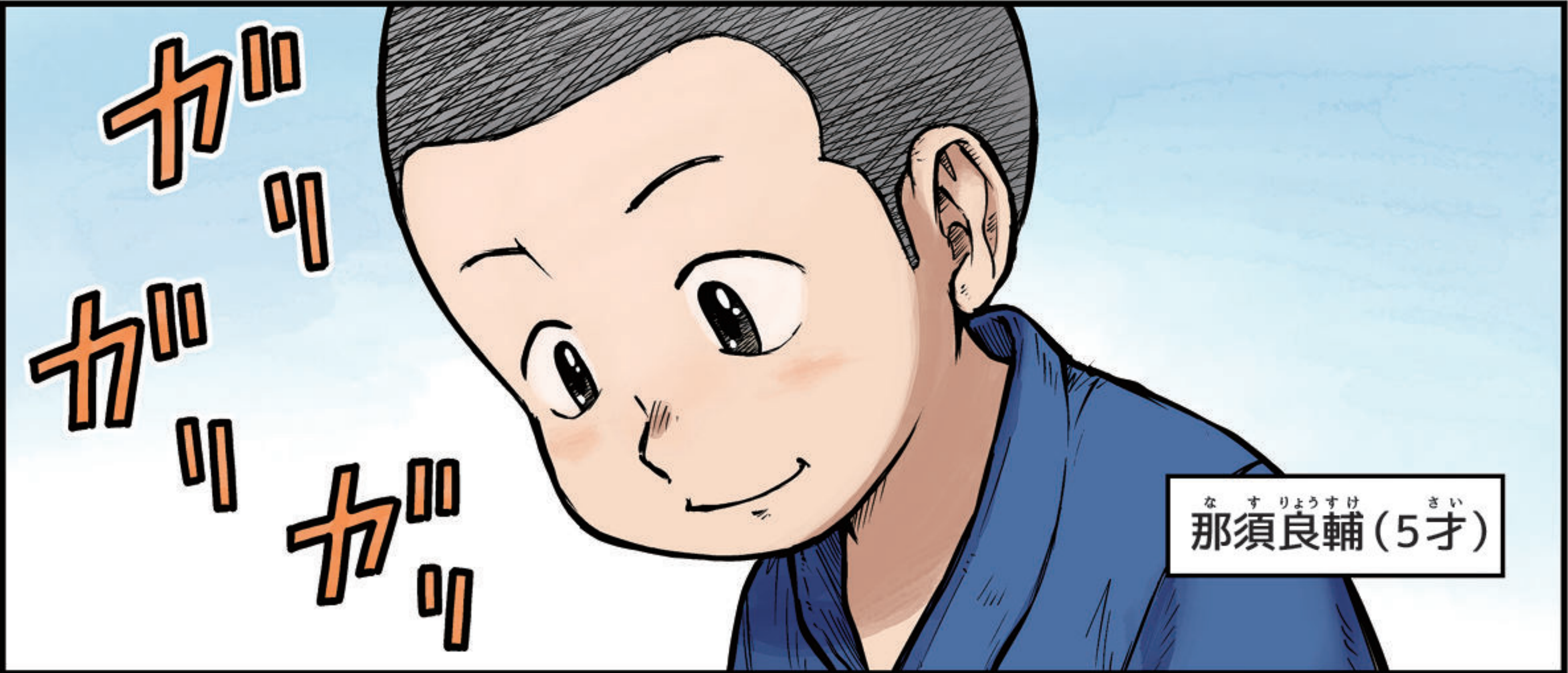
④ 球磨郡湯前村：熊本県南部。昭和12年（1937年）湯前町となった。



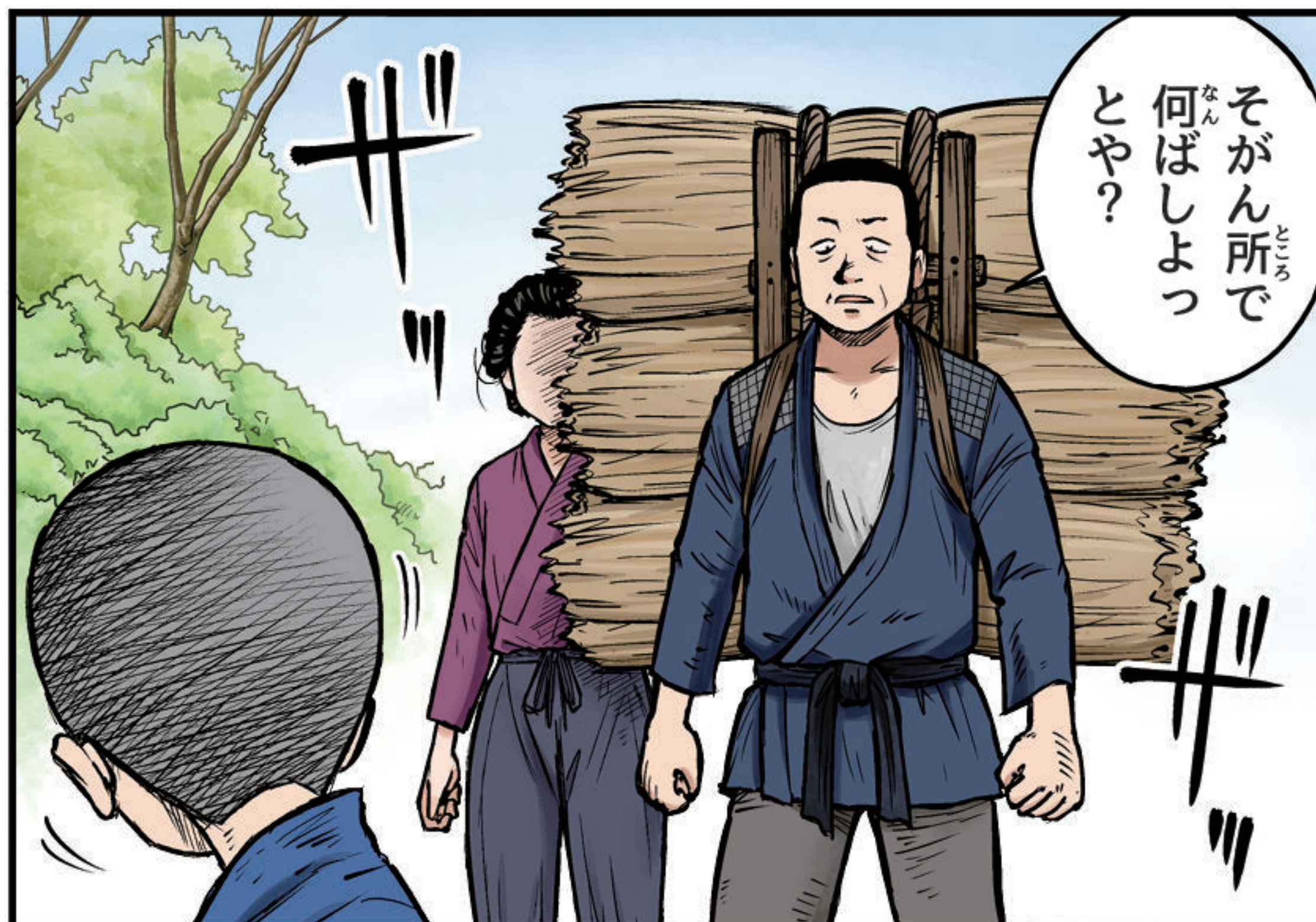
大正8年(1919年)



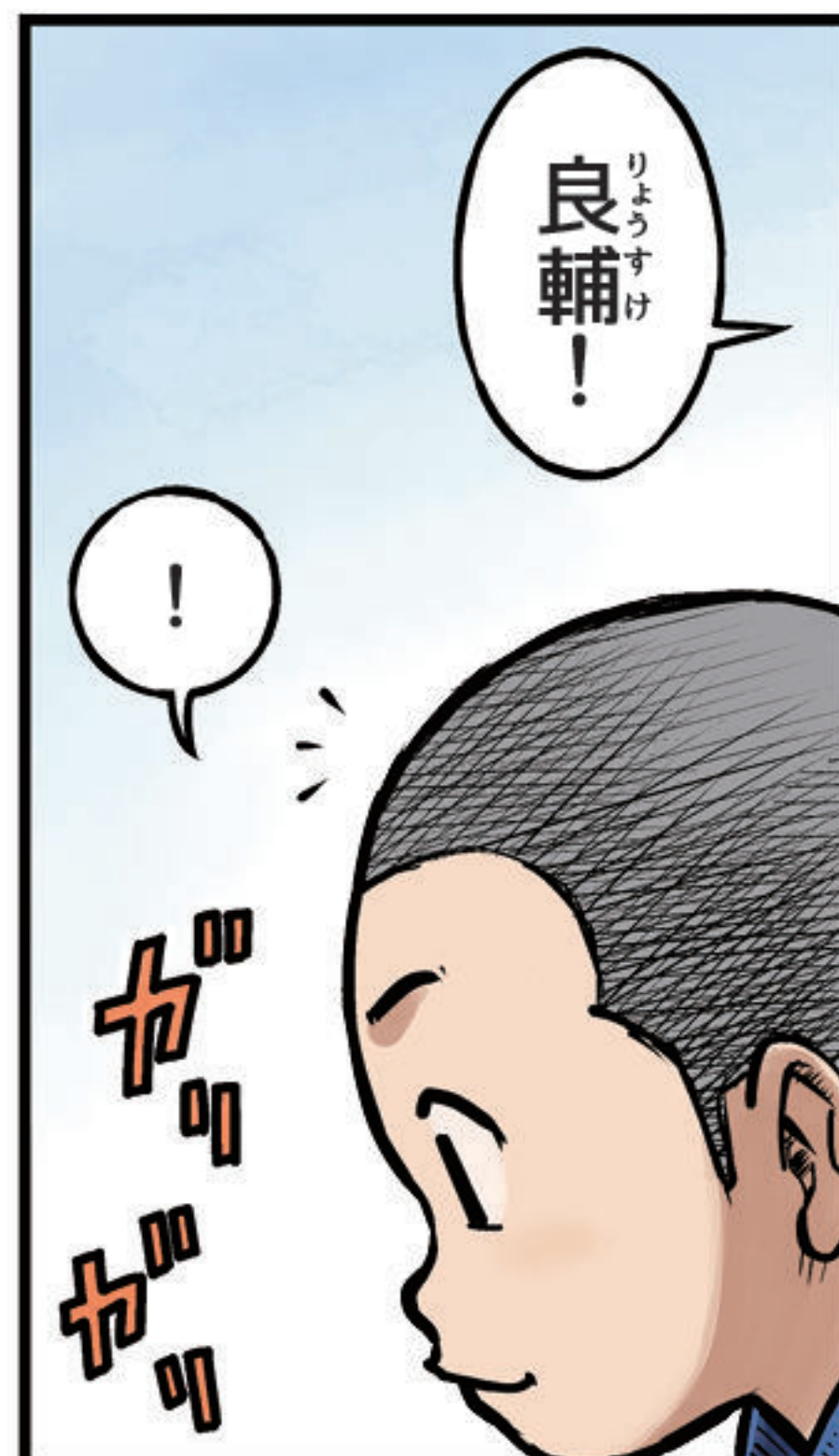
④ メジロ：目の周りが白い小鳥。湯前町の鳥に指定されている。



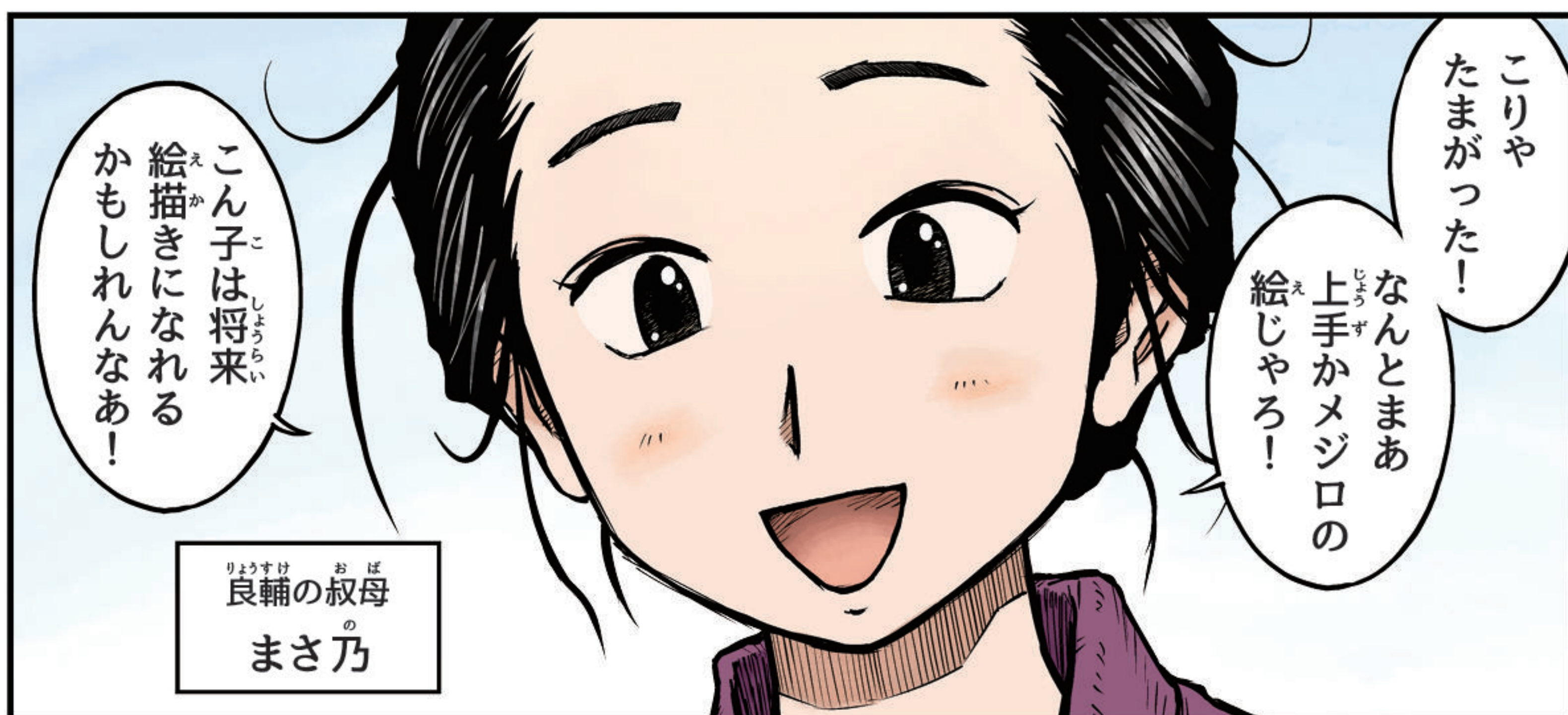
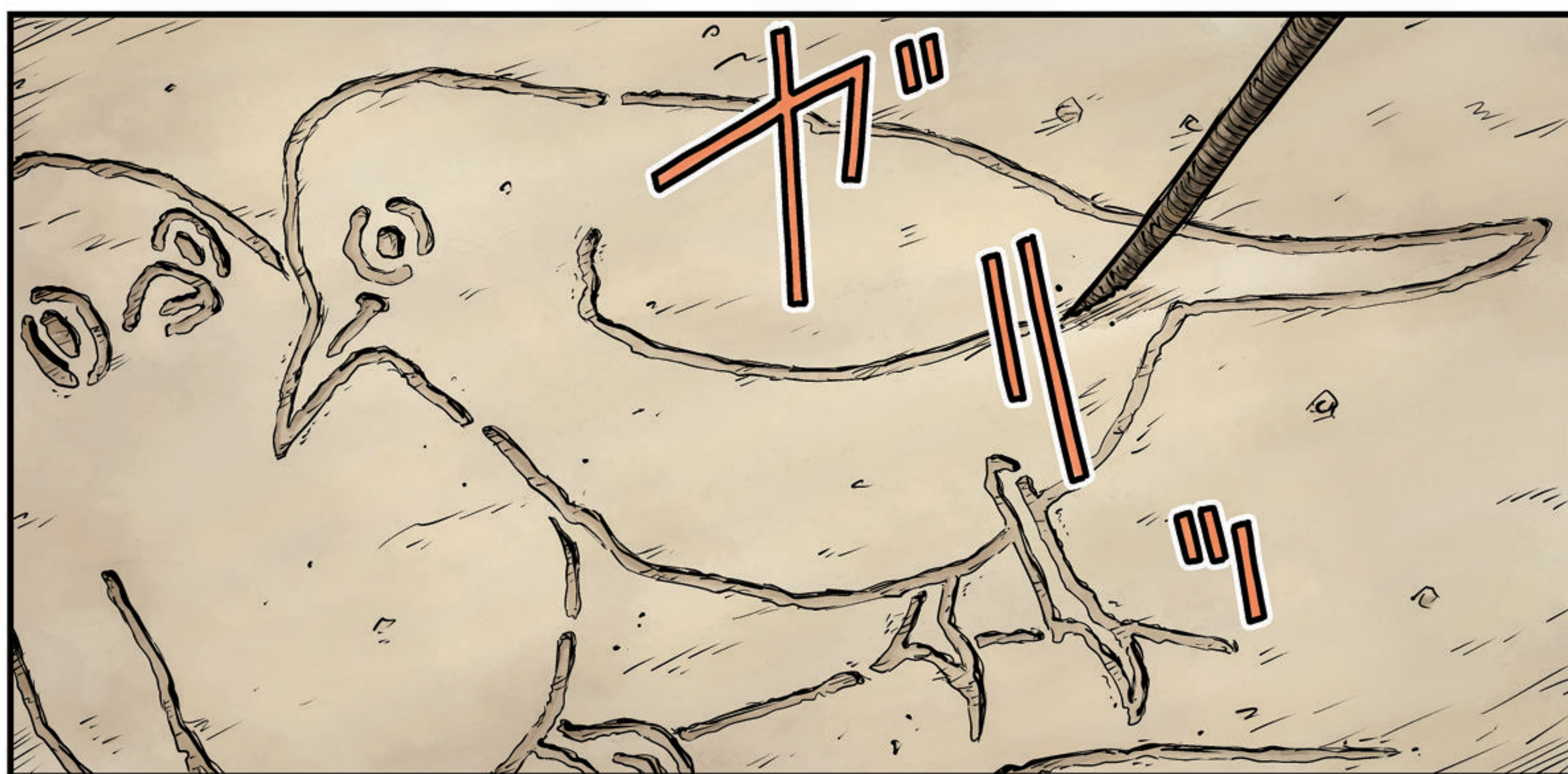




そがん所で  
何ばしよつ  
とや？



良輔！



こりや  
たまがった！

なんとまあ  
上手かメジロの  
絵じやろ！

こん子は将来  
絵描きになれる  
かもしれんなあ！

良輔の叔母  
まさ乃





なんば  
馬鹿んごつ  
言うとか？

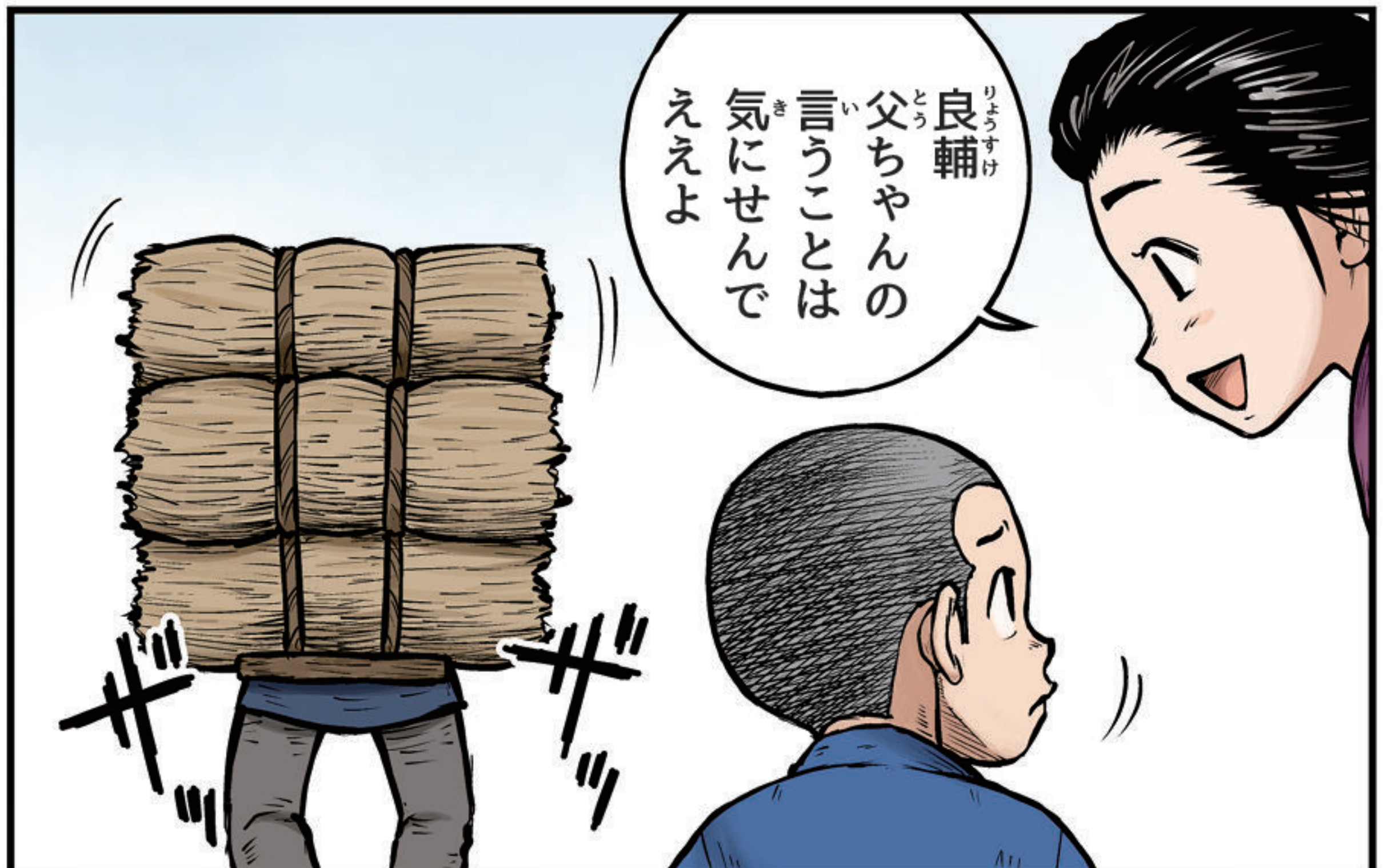
百姓の子は  
百姓つたい！

絵描きには  
なれんたい！

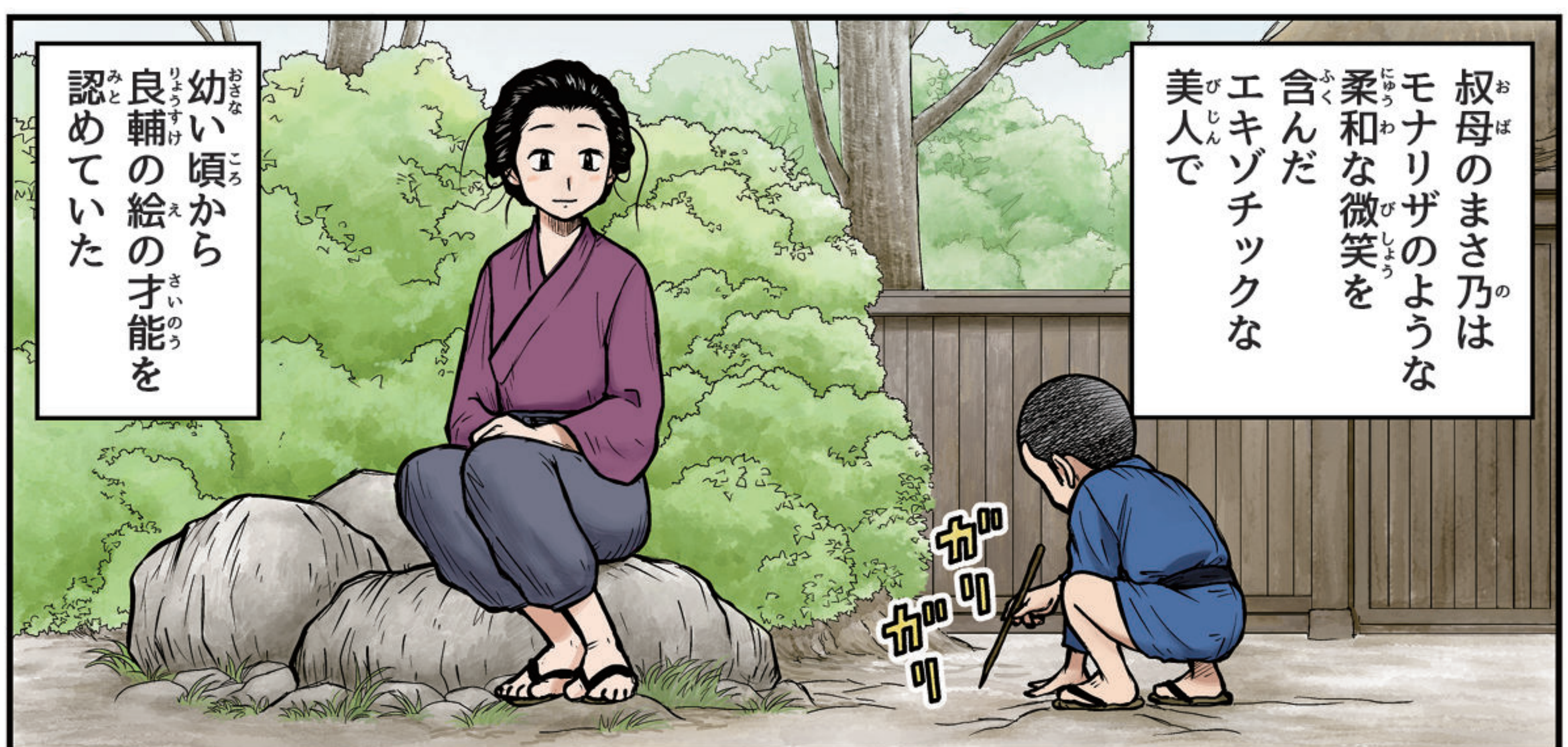
良輔の父親  
源次郎



どら  
うちの絵も  
描いてもらおう  
かね



良輔  
父ちゃんの  
言うことは  
気にせんで  
ええよ

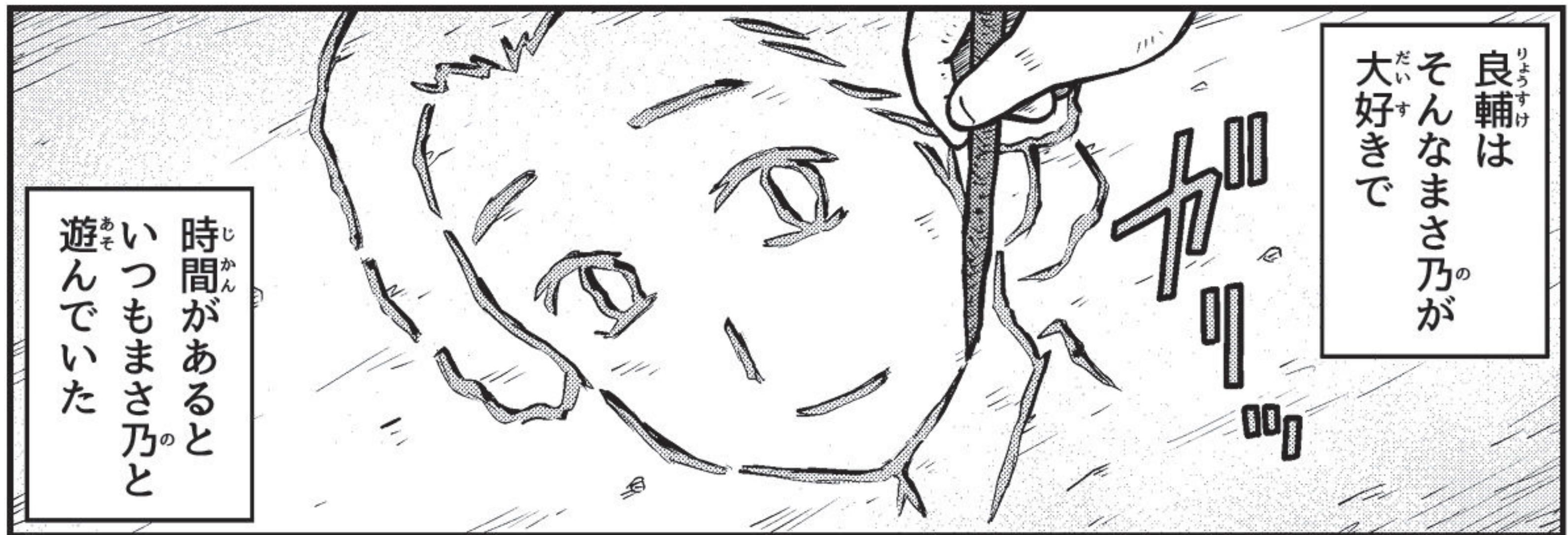


叔母のまさ乃は  
モナリザのような  
柔和な微笑を  
含んだ  
エキゾチックな  
美人で

幼い頃から  
良輔の絵の才能を  
認めていた

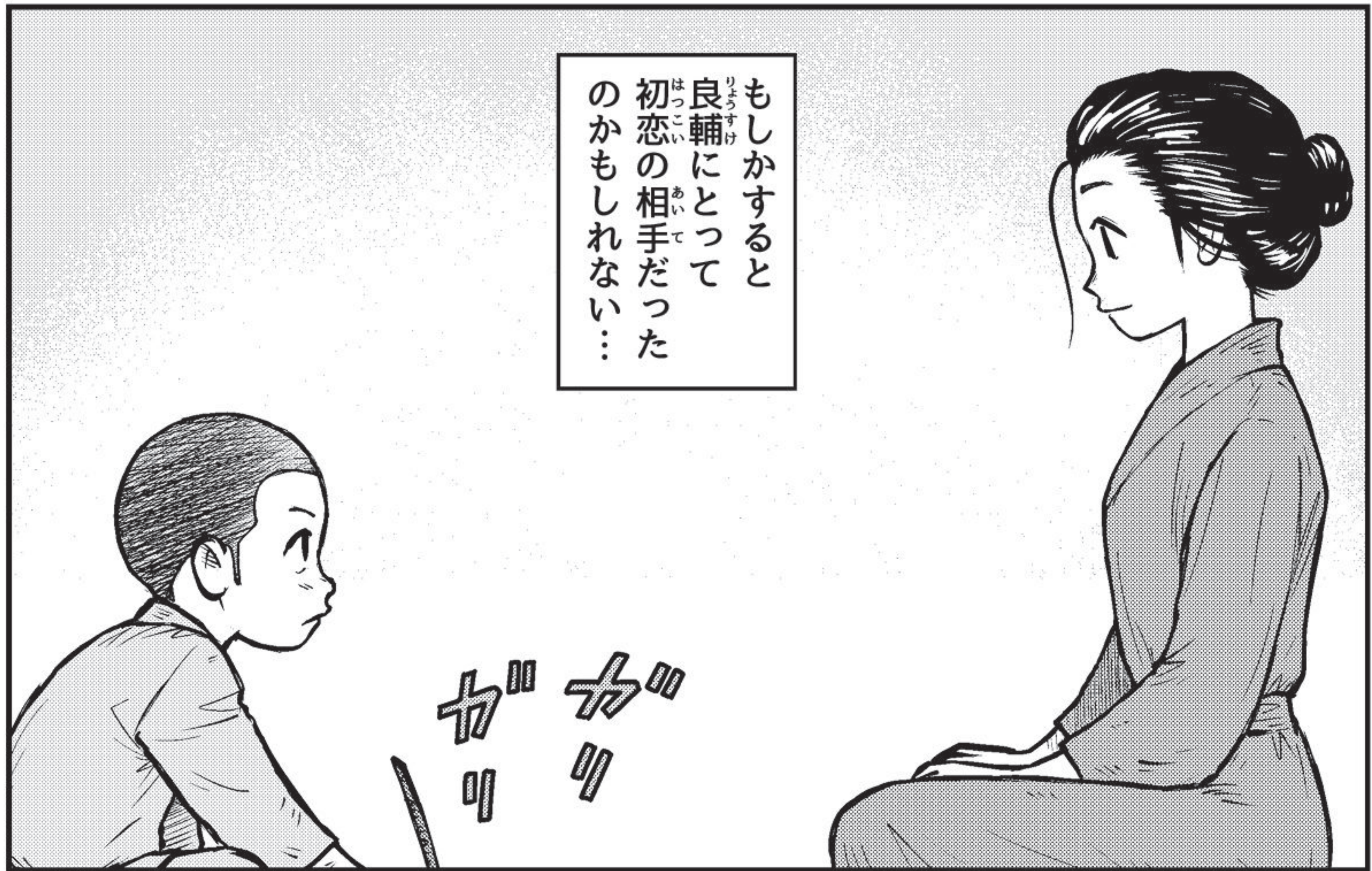
か  
か  
か



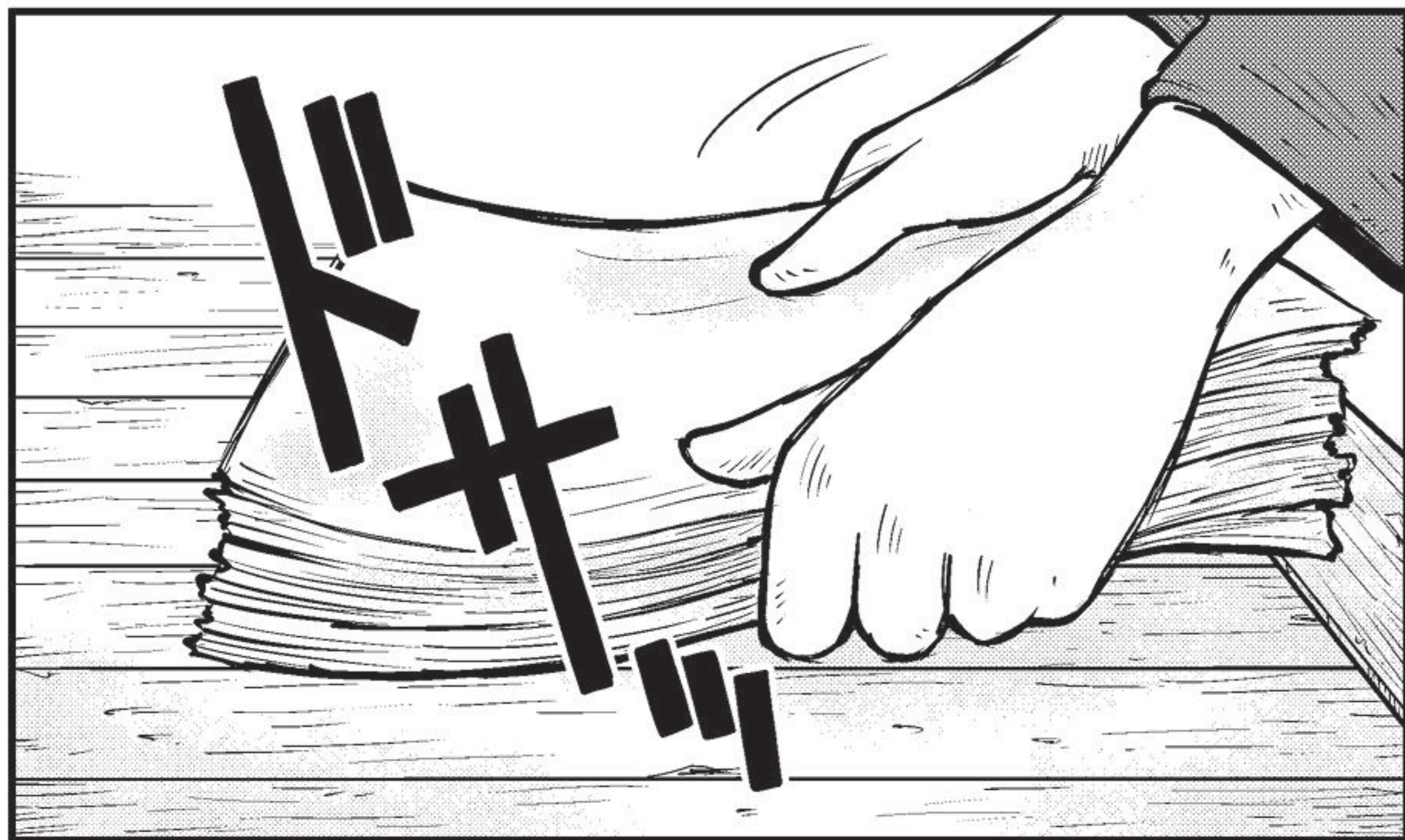


良輔は  
そんなまさ乃が  
大好きで

時間があると  
いつもまさ乃と  
遊んでいた

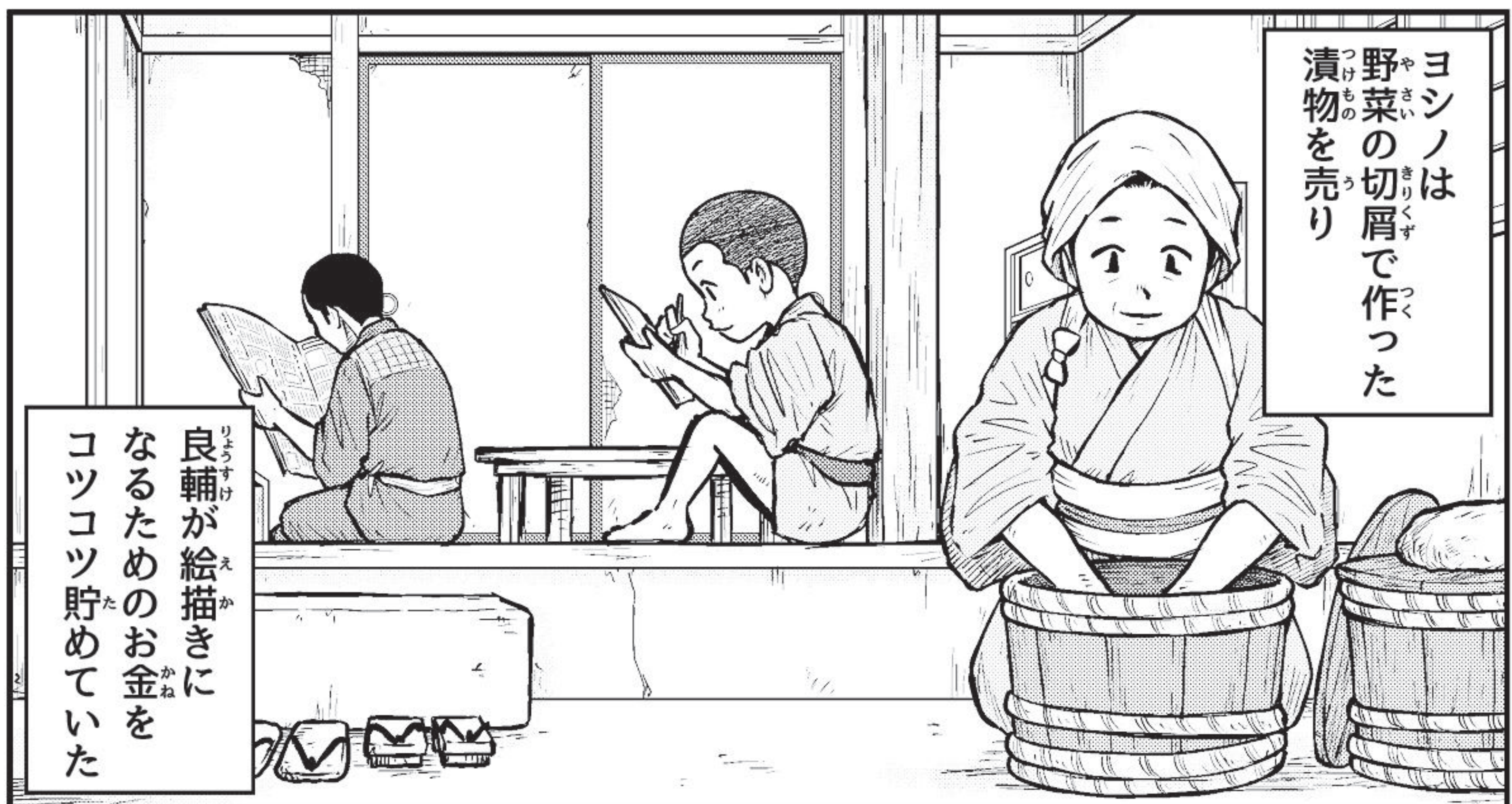
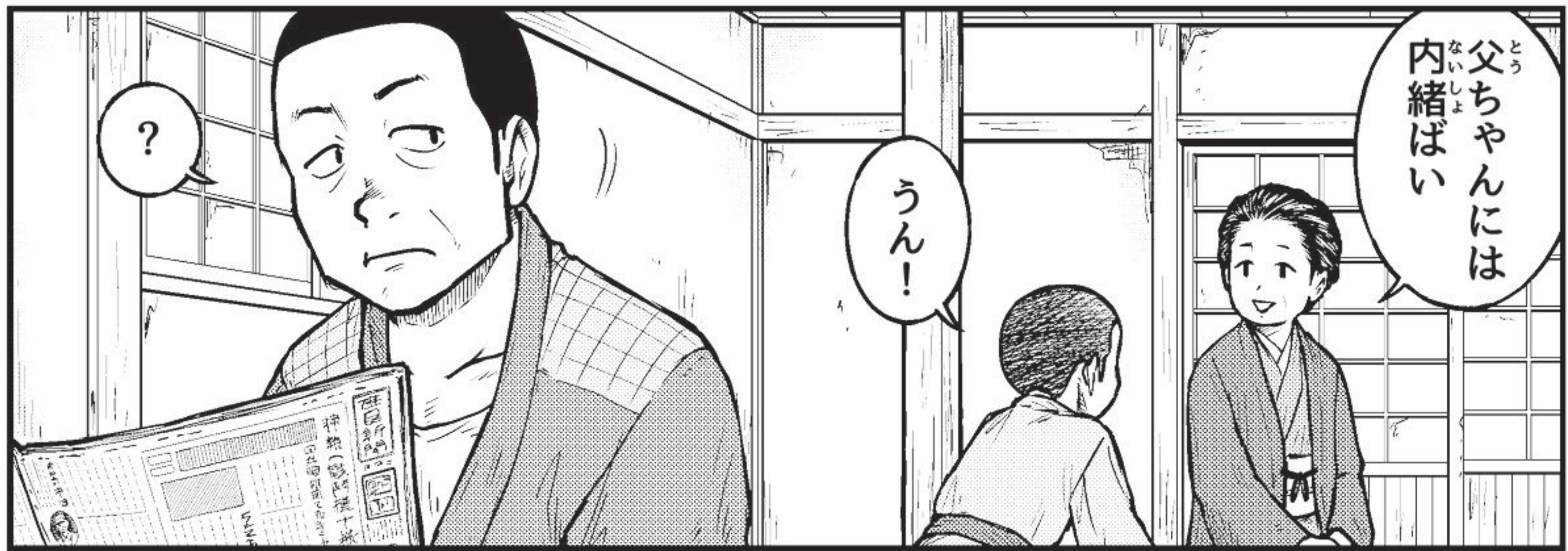


もしかすると  
良輔にとって  
初恋の相手だった  
のかもしれない：



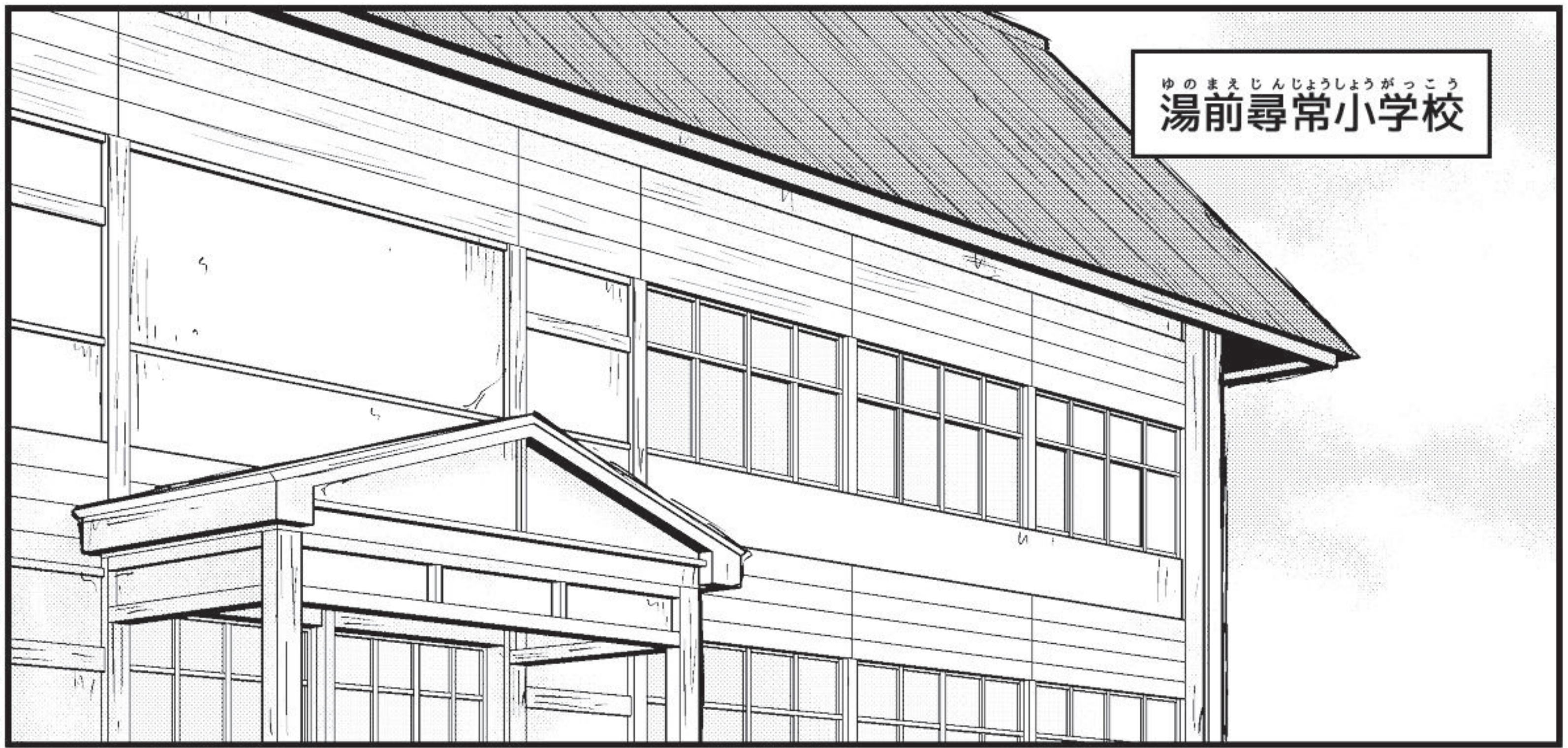
そしてもう一人  
良輔の絵の才能を  
認める人物がいた







④ 当時は湯前尋常小学校と呼ばれ、尋常科(現：小学校)と高等科(現：中学校)があった。



ゆのまえじんじょうしょうがっこう  
湯前尋常小学校



高等科に  
上がった良輔は  
相変わらず  
絵を描くのが  
大好きで

カリカリ



カリカリ

※ロツケしゃん…良輔のあだ名。



二郎という  
一学年上の男の子が  
作った物語に挿絵を  
描いたりしていた

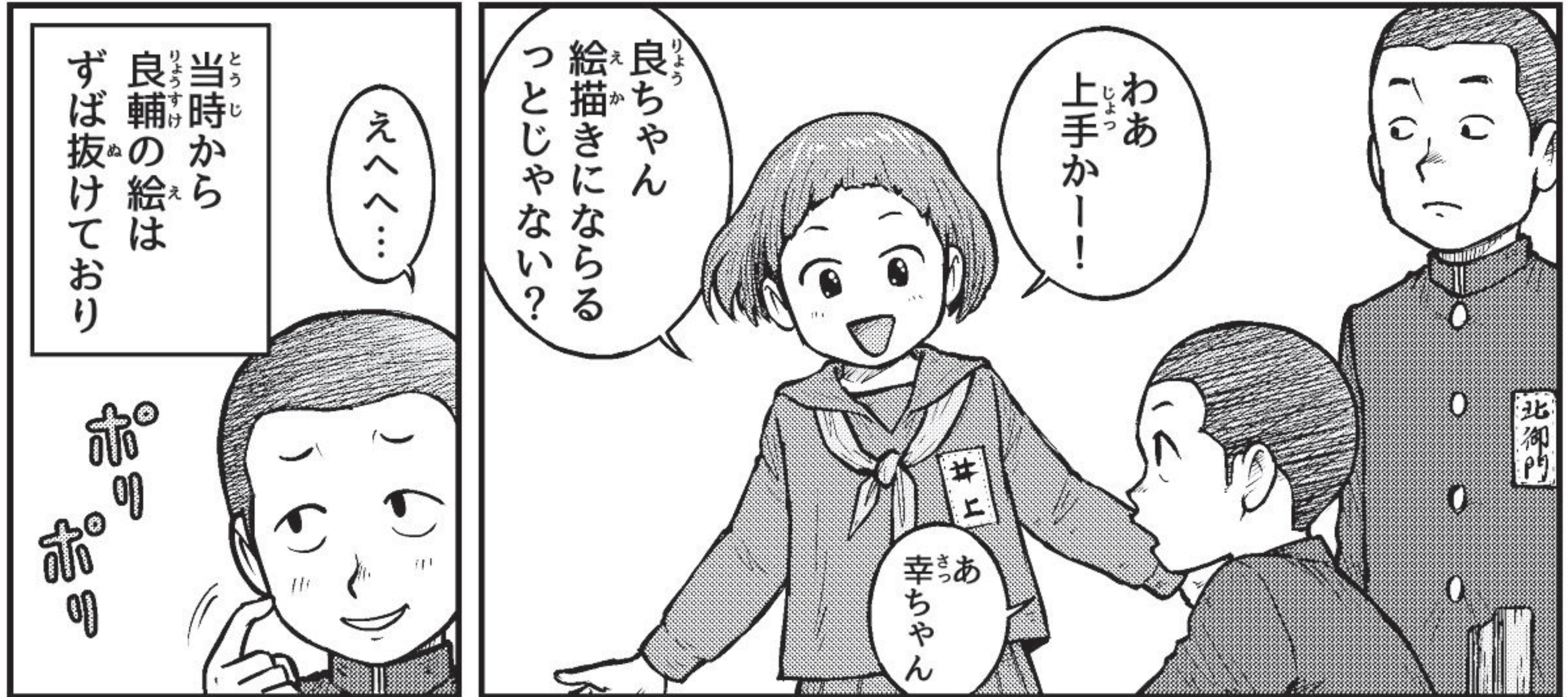
ロツケしゃん  
ここここに  
描いてくれんね!

うん!

④ 二郎…北御門二郎。良輔と同じ年生まれ。  
のちにトルストイ文学研究者、翻訳家となる。  
良心的兵役拒否者としても知られる。



④幸ちゃん…井上幸、結婚・改姓して山北幸。良輔の同級生。  
 のちに下村婦人会で市房漬を考案。  
 平成19年(2007年)、湯前町町民栄誉賞受賞。

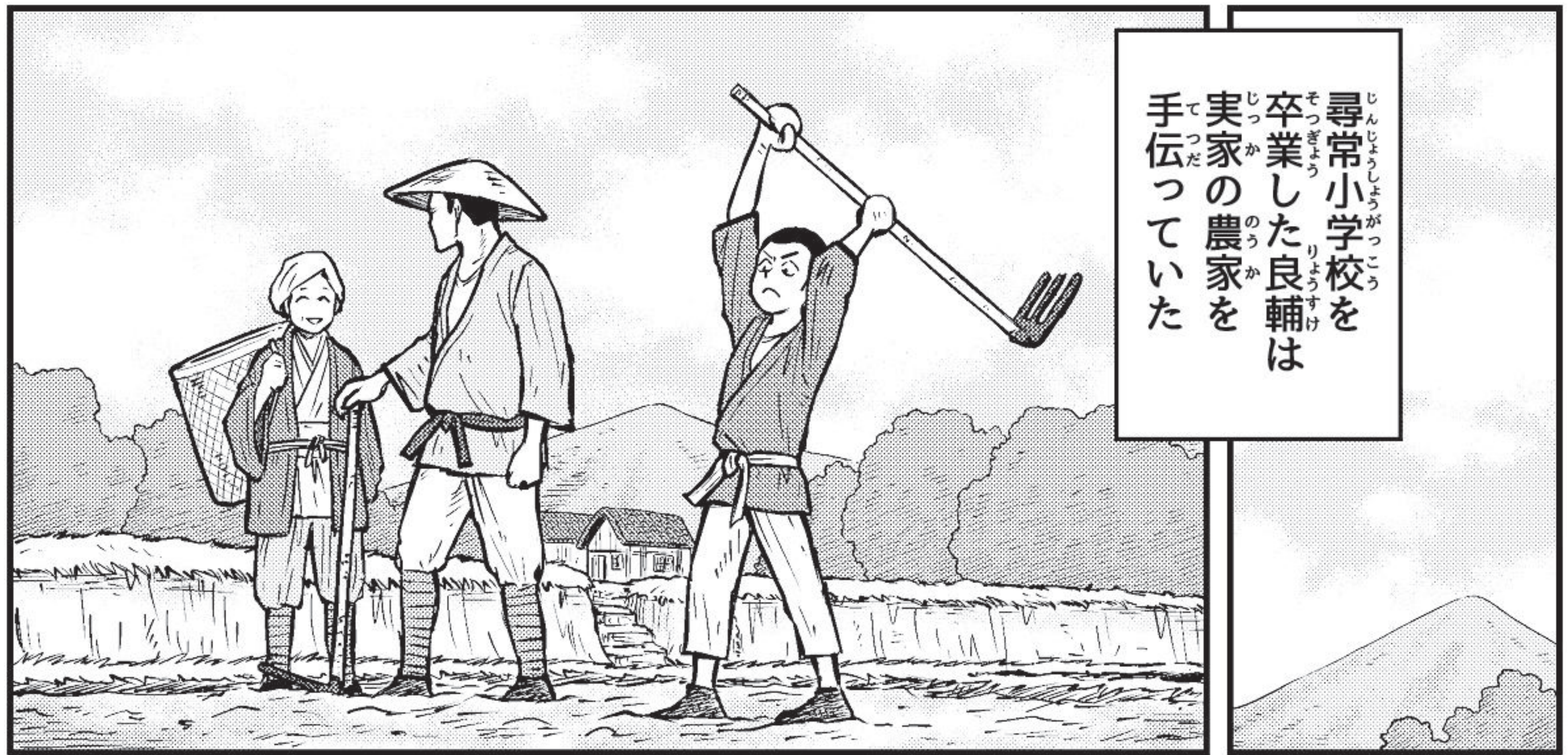


※ルフラン…1720年創業のフランスの絵具メーカー。



※コロー…19世紀のフランスの画家。





尋常小学校を卒業した良輔は  
実家の農家を手伝っていた



父親は農業のかたわら  
政党的役員を  
しており

家は選挙事務所  
にもなっていた



ほんと？

顔が見れば  
誰が当選するかわかる

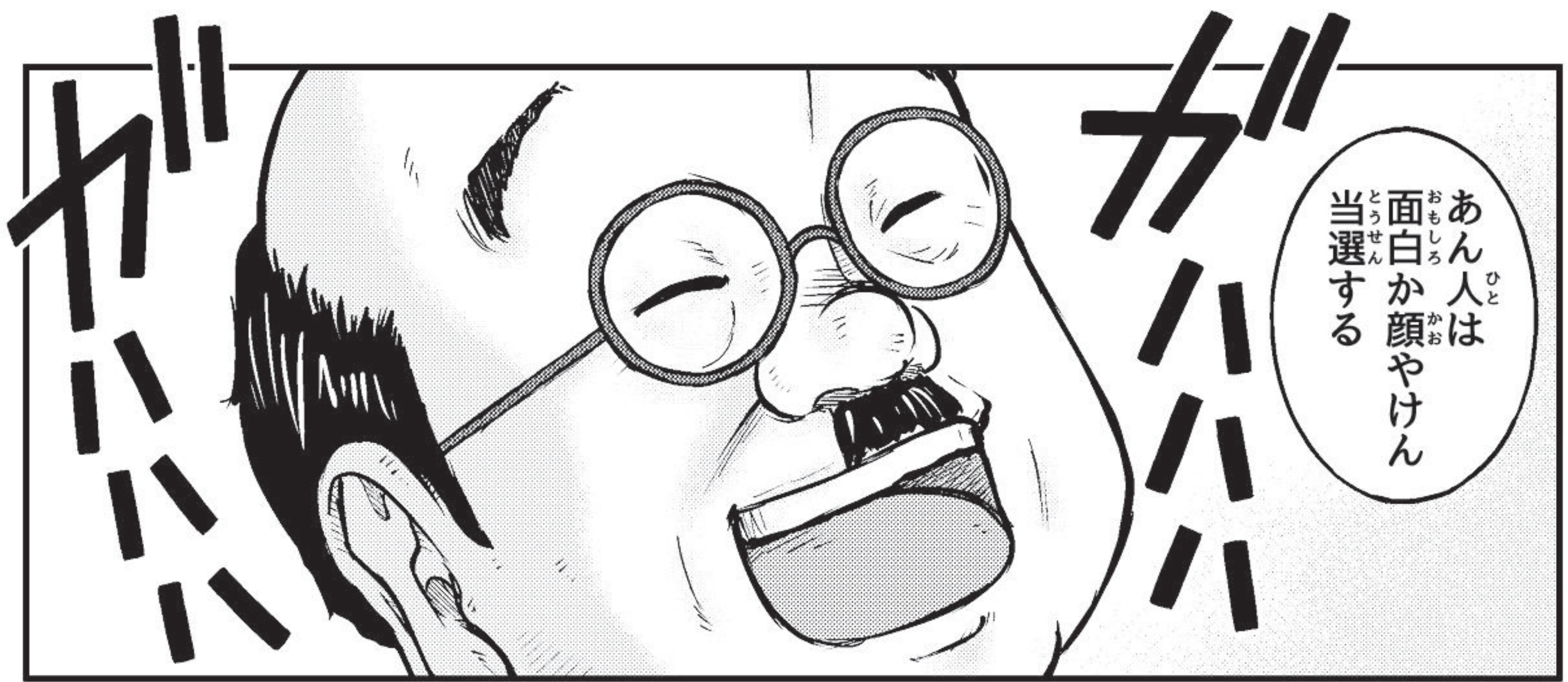
俺は長年  
役員をしとるけん



良輔

ん？



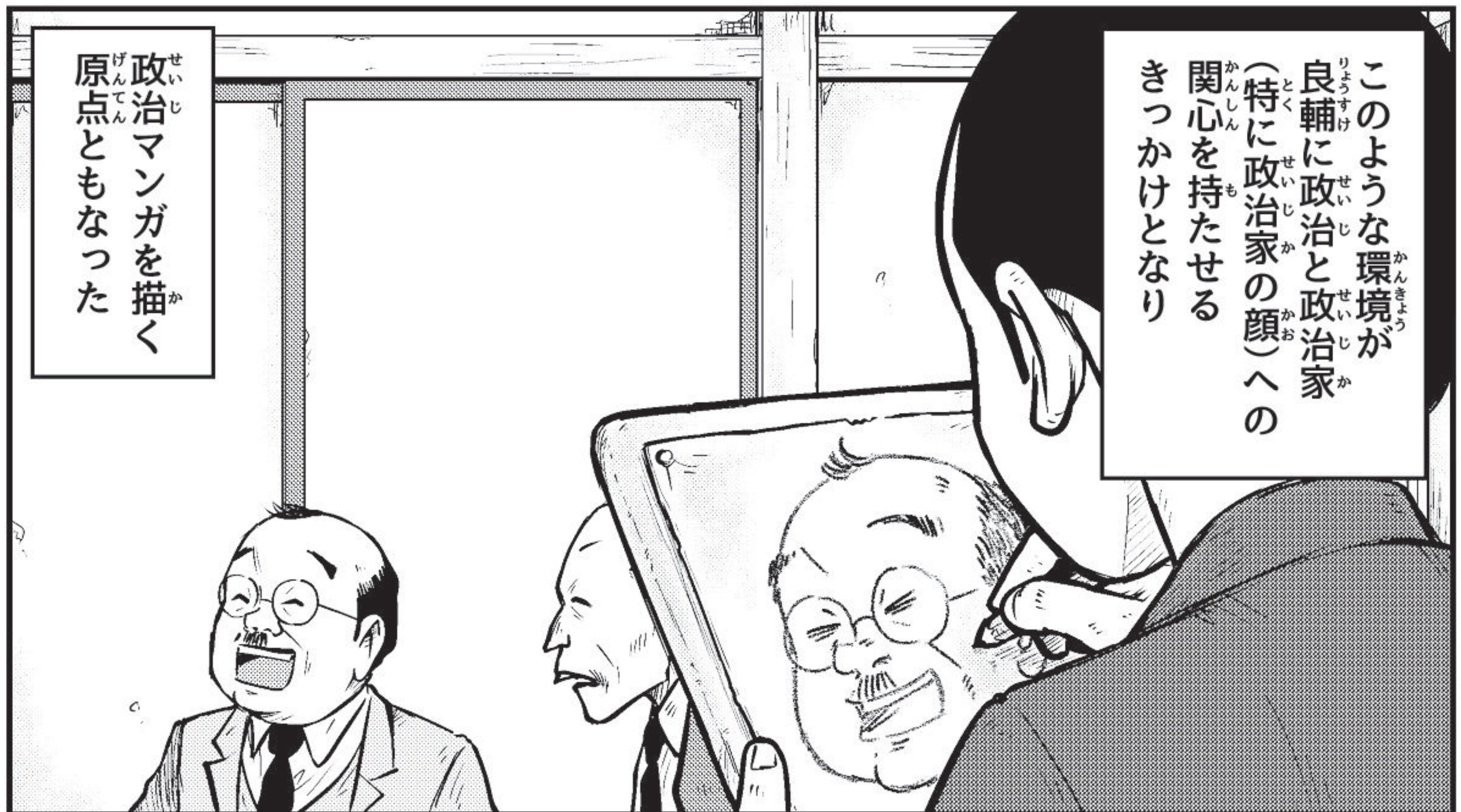


あんな人は  
面白か顔やけん  
当選する



顔かあ…

政治家は  
能力も大事かばってん  
顔も大事たい



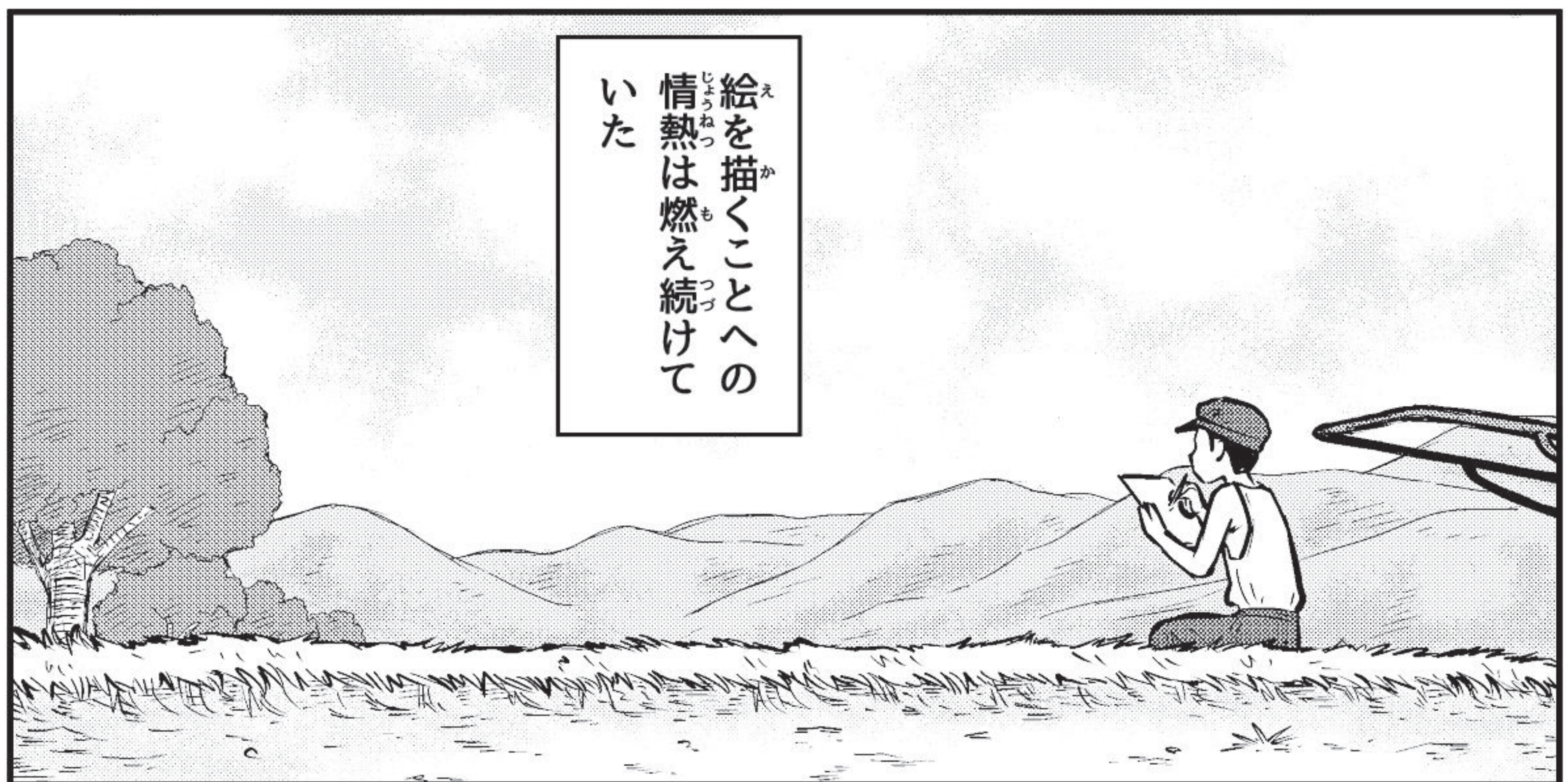
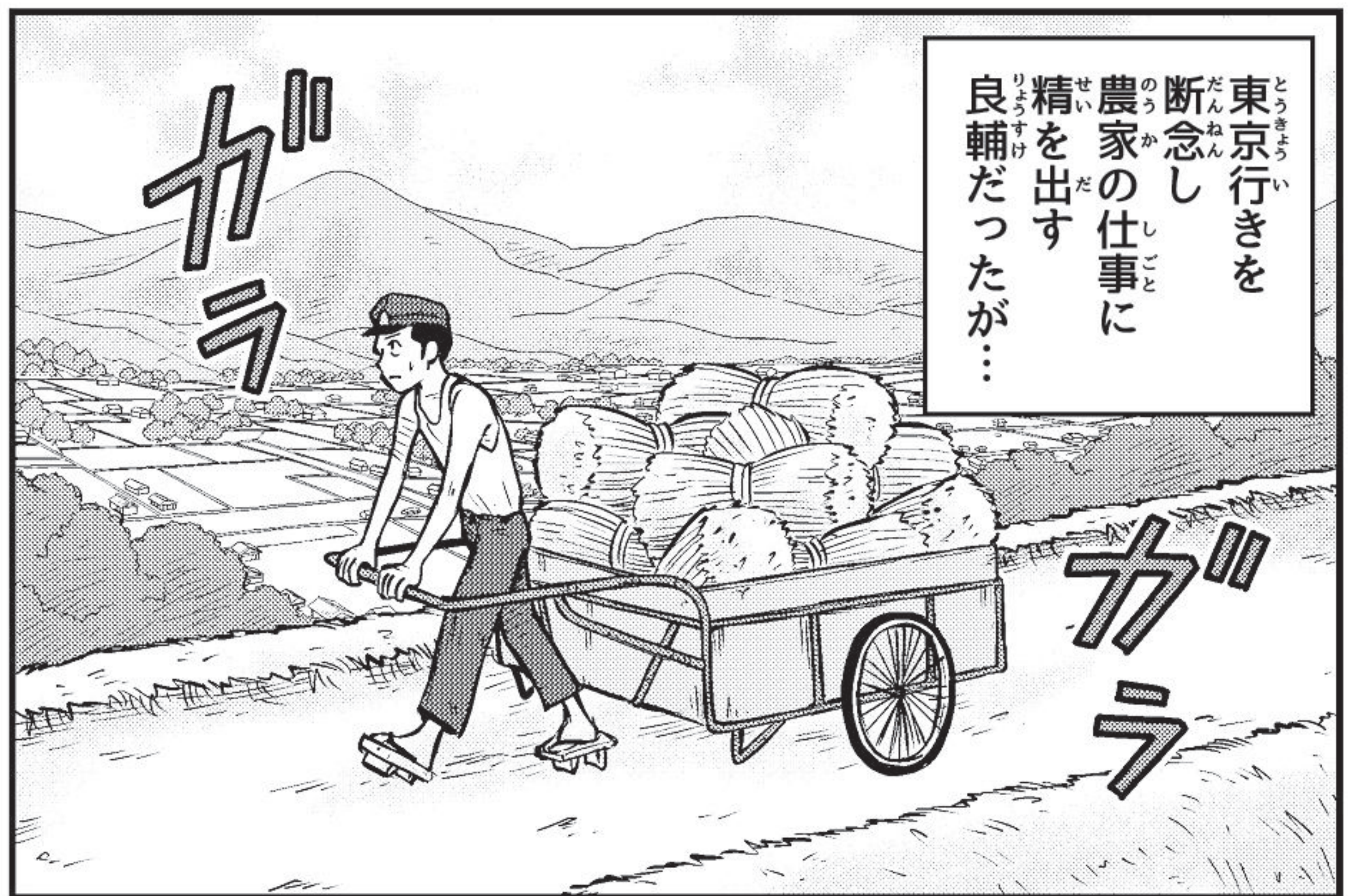
政治マンガを描く  
原点ともなった

このような環境が  
良輔に政治と政治家  
(特に政治家の顔)への  
関心を持たせる  
きっかけとなり











ゆ 湯前城跡に市房山神宮下宮里宮神社が昭和9年(1934年)再建。  
同地区内の榮立寺は、昭和10年(1935年)お堂建替。



画家への想いが抑え  
切れなくなった良輔は  
再び東京行きを決意し

まさ乃の  
打ち明ける



そして2年後…



俺  
太平洋美術学校  
行く！

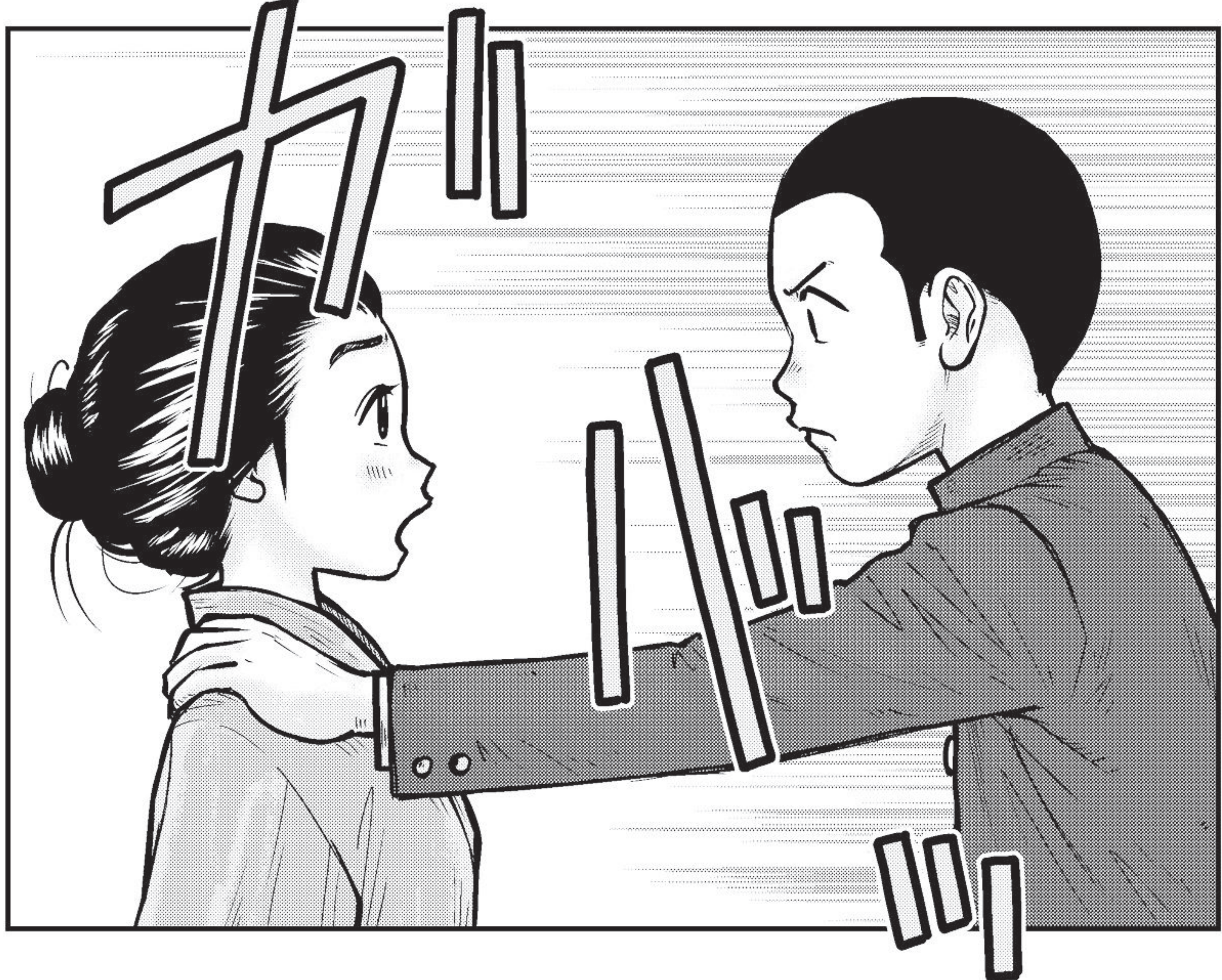
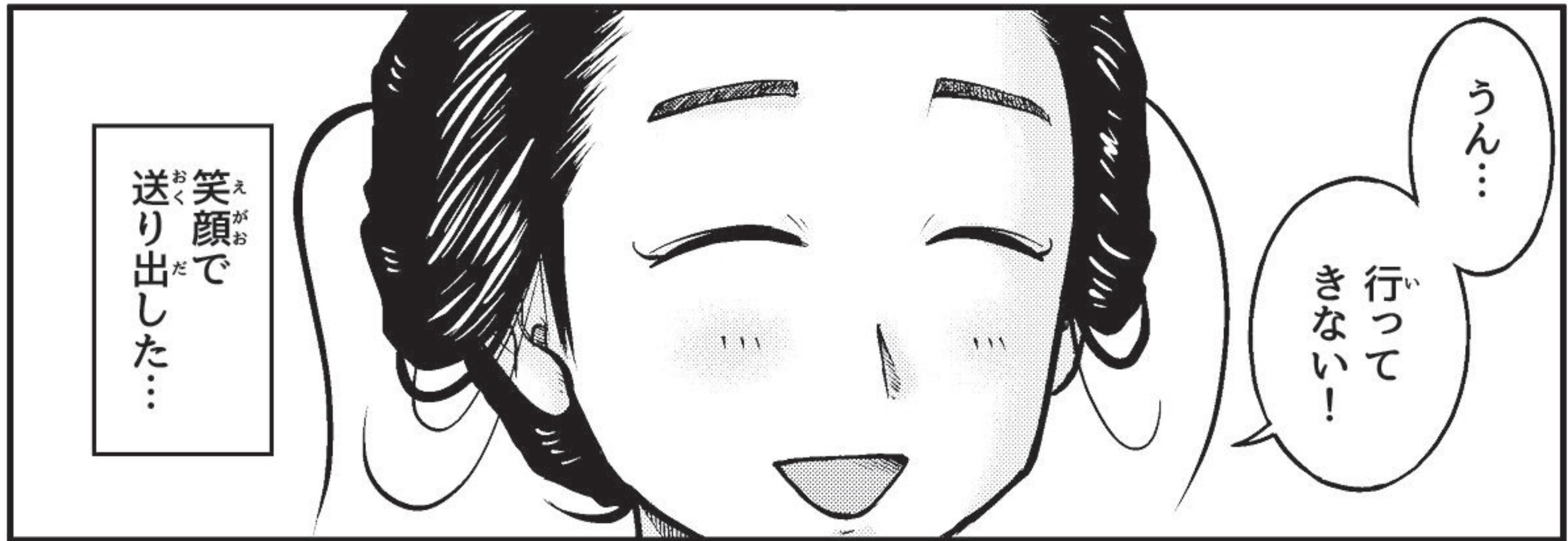
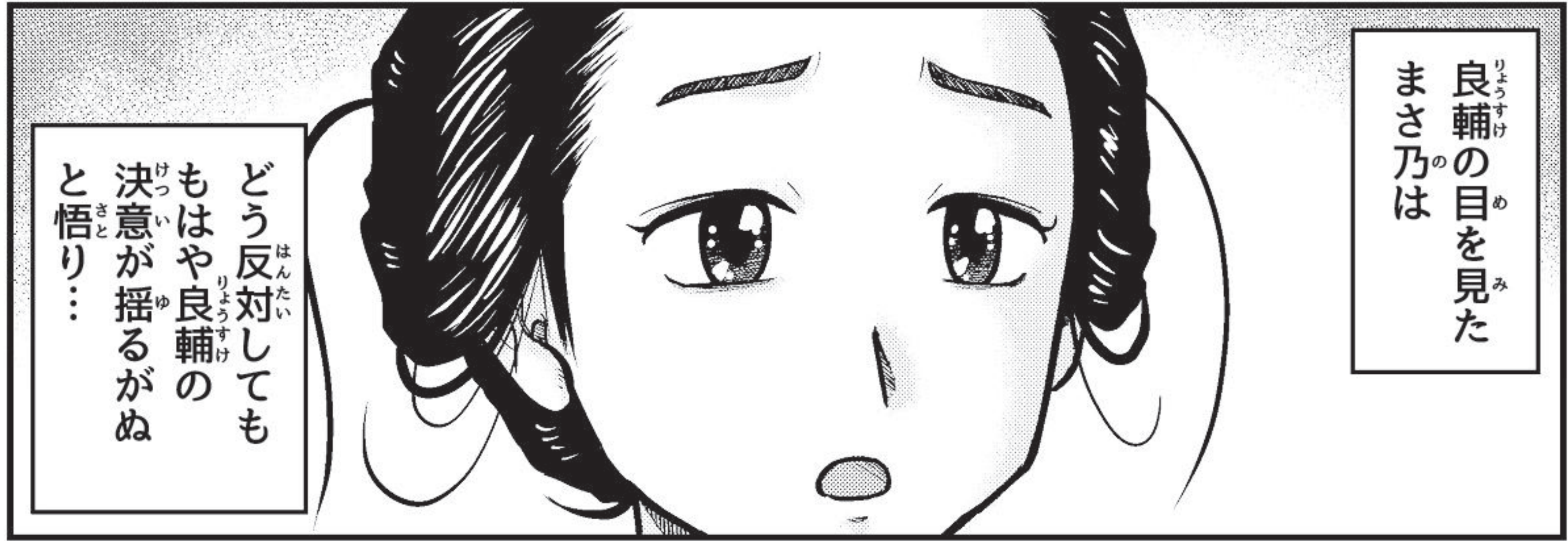
中村不折先生や  
石川寅治先生に  
絵ば習う！



良輔…

※中村不折…フランスに留学していた洋画家。太平洋美術学校校長。  
※石川寅治…ヨーロッパやアメリカに留学していた洋画家。

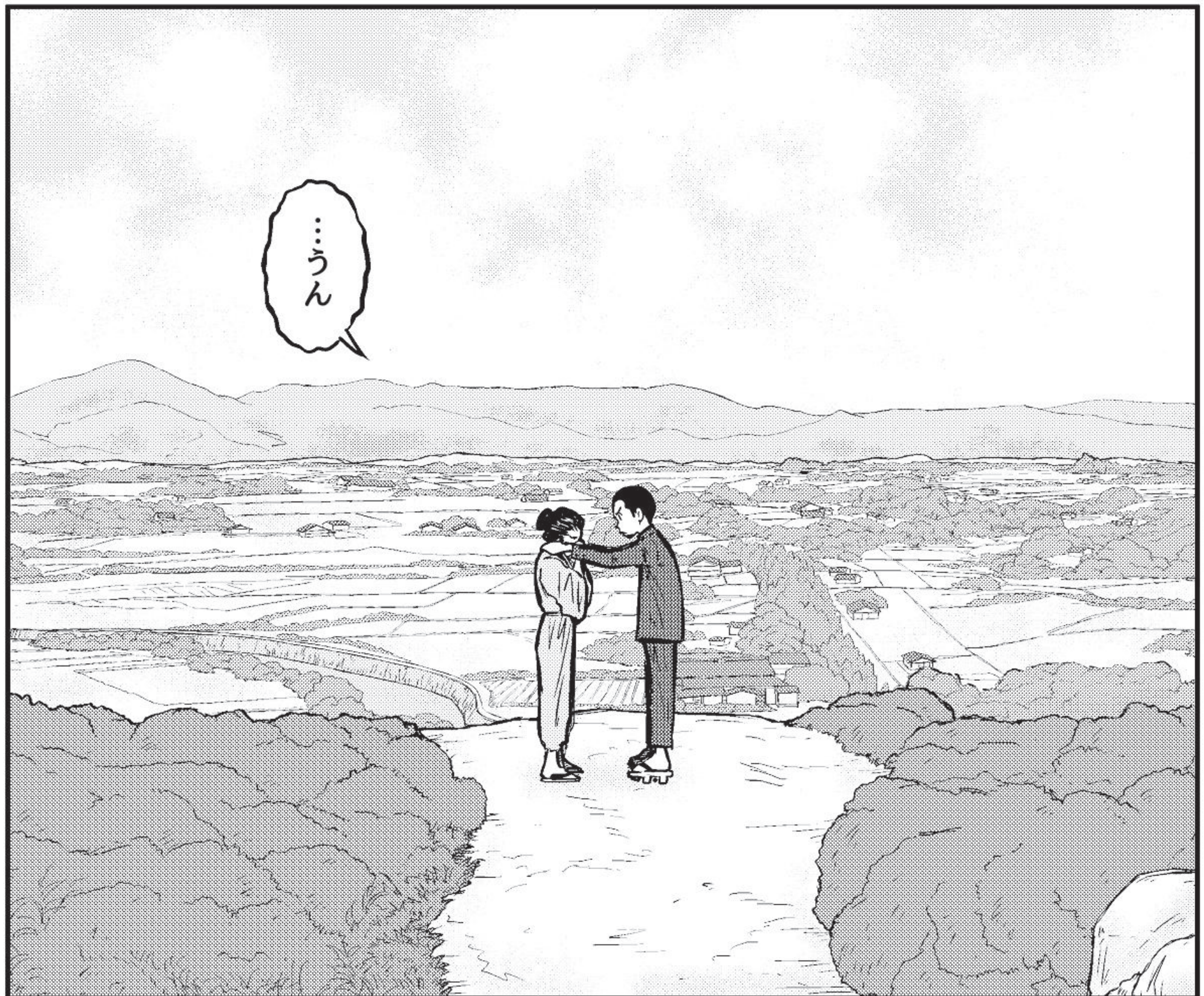








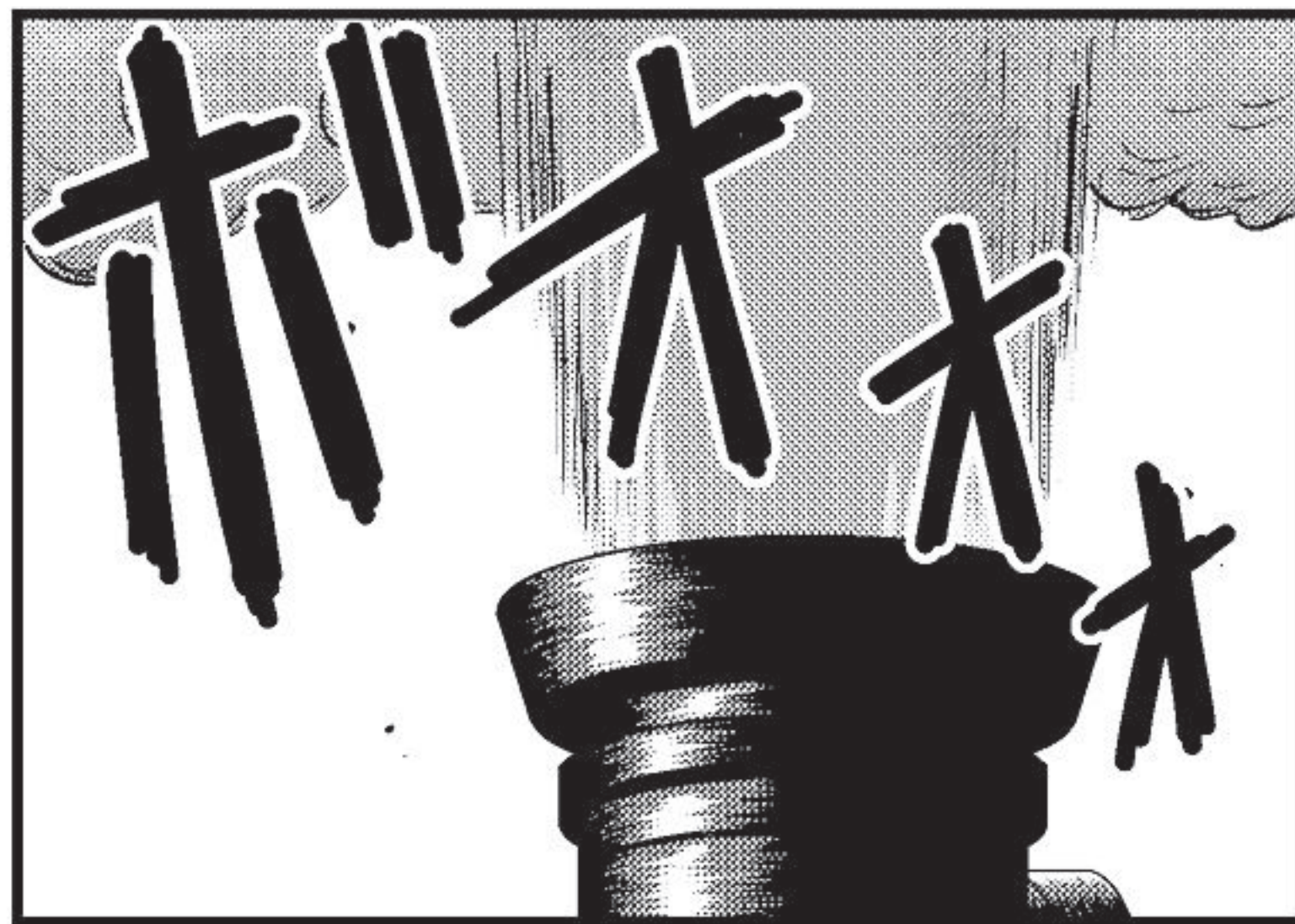
俺、立派な  
画家になる  
けん!!



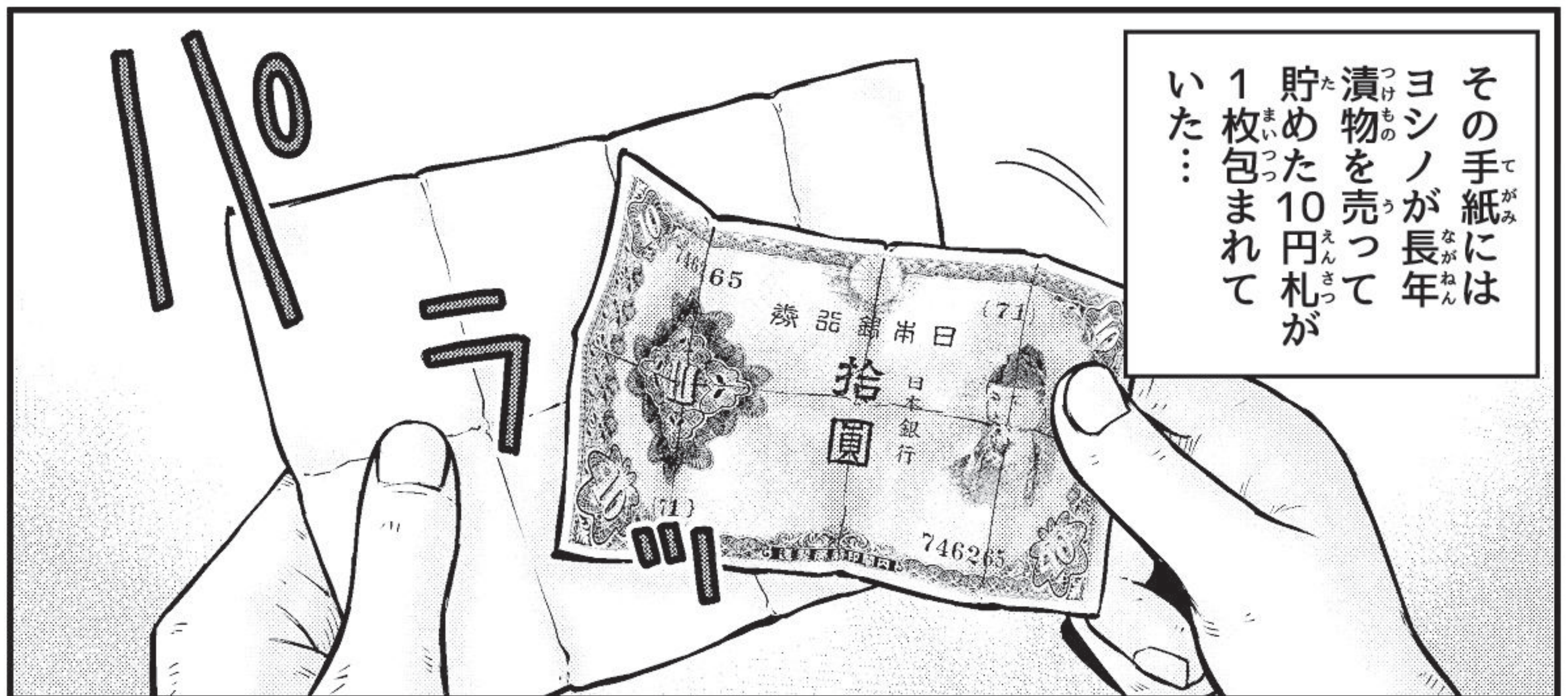
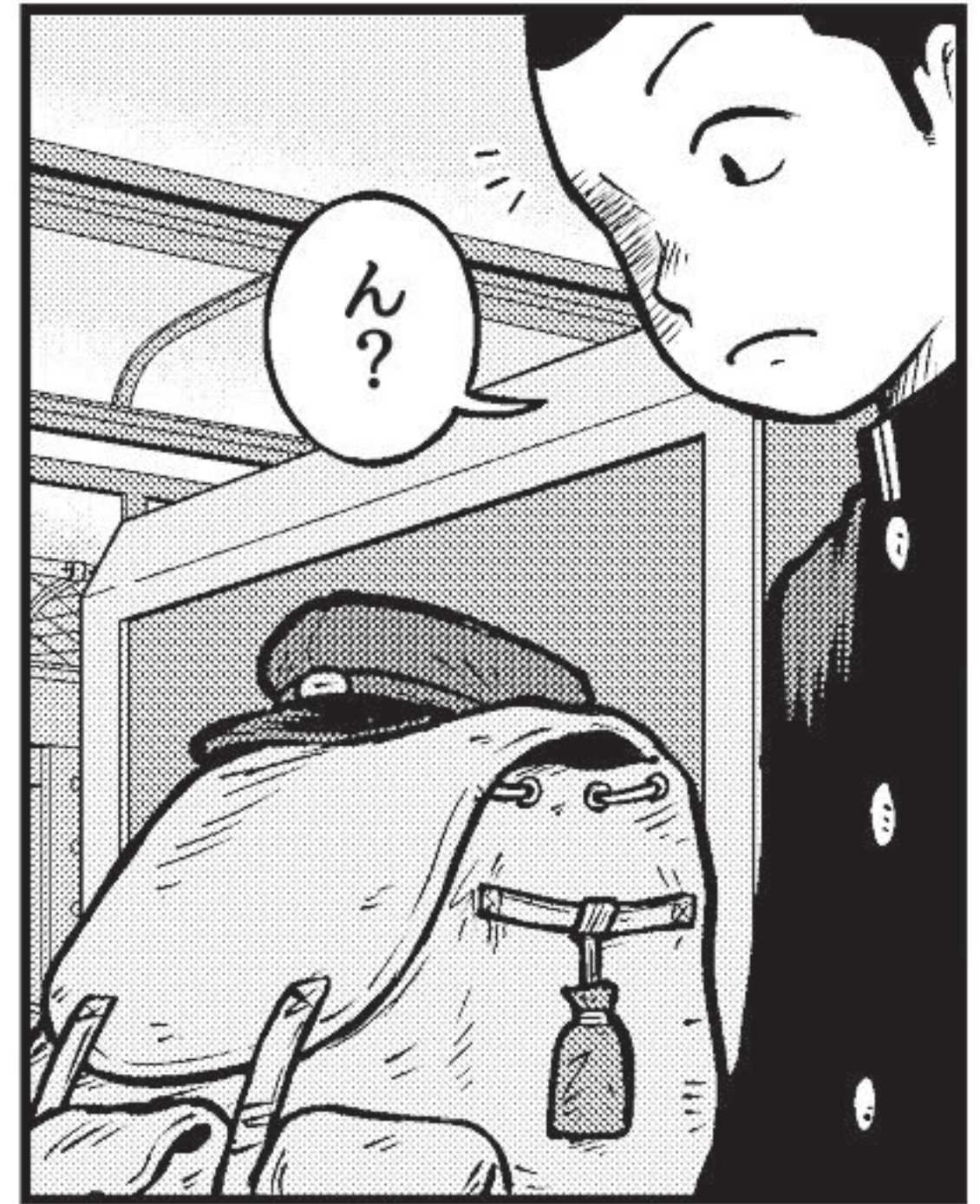
…うん



ゆのまえき たいしやう 13ねん (1924ねん) かいぎょう げん ぐまがわてつどう ゆのまえせん のしゆうてん。  
 くまがわてつどう けつしやくがいはしや へいせいげんねん (1989ねん) げんそく。

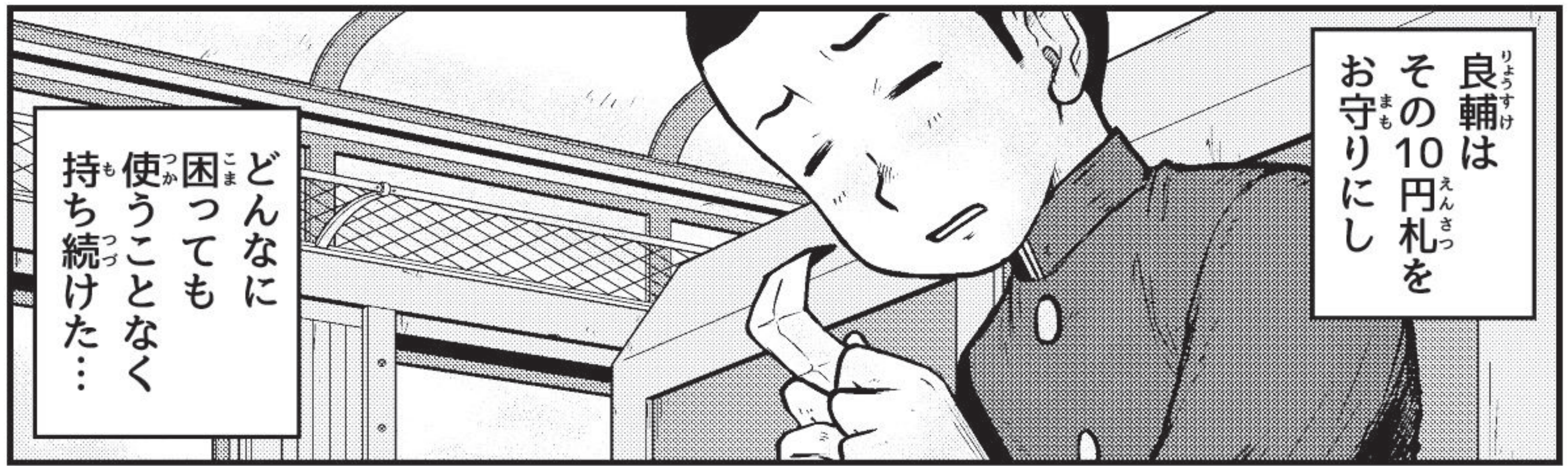






※10円札...昭和初期の10円は現代では約2万円の価値がある。





良輔は  
その10円札を  
お守りにし

どんなに  
困っても  
使うことなく  
持ち続けた…



かくして良輔は  
18年間過ごした  
湯前を後にし

画家への一歩を  
踏み出したので  
あった



**まんがの町ゆのまえ**

**マンガの力を活かす町**

湯前まんが美術館は、那須良輔の偉業や遺志を語り継ぐ拠点としてのみならず、「まんがの町」の拠点としても様々な事業を展開してきました。

まんが美術館開館と同時にスタートした「ゆのまえ漫画フェスタ（11月開催）」では、アニソン歌手やマンガ家をゲストに迎えたアニソンライブ・マンガ家サイン会やファン交流イベントを実施しています。「漫画フェスタ」には地域の方や全国のマンガ・アニメファン



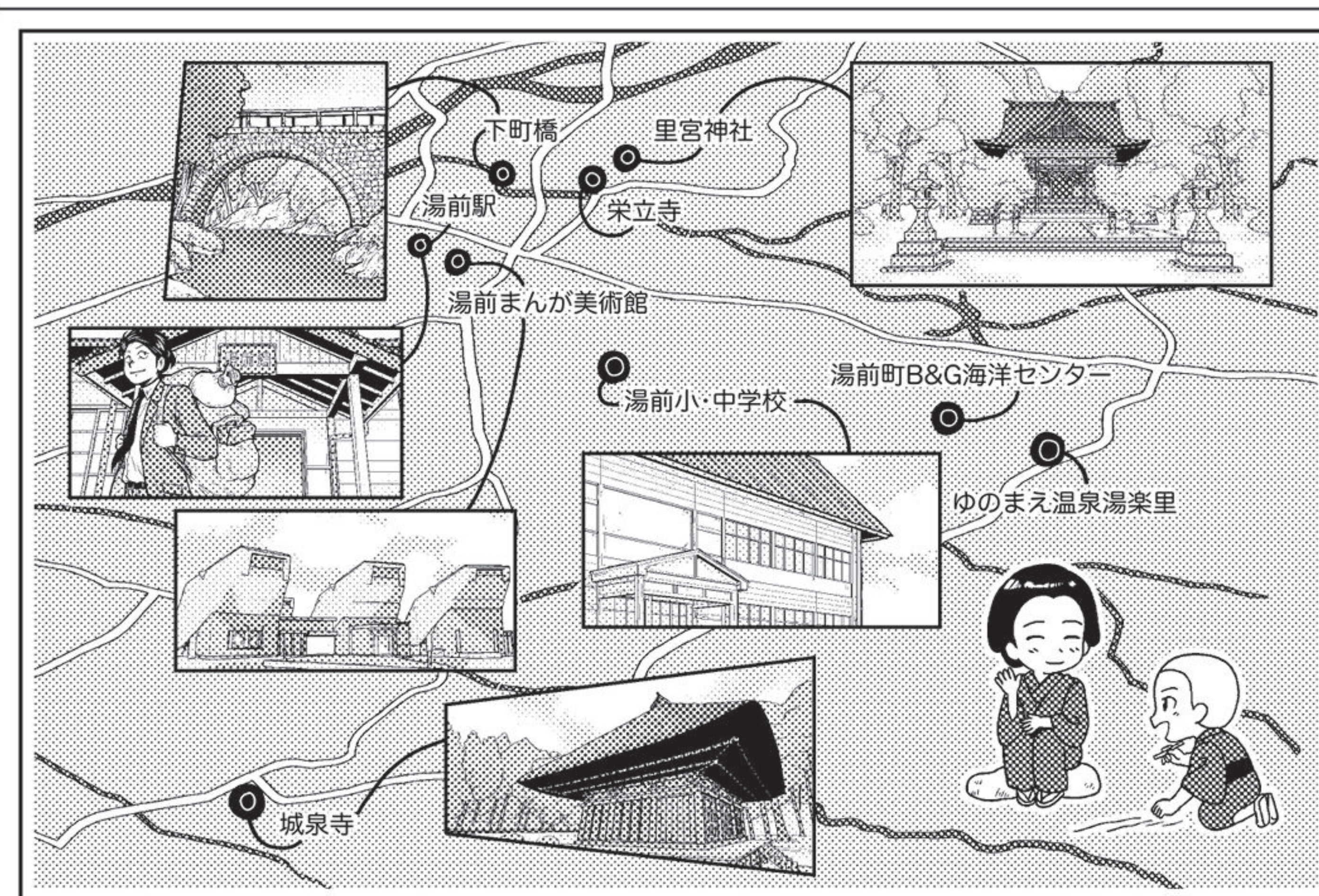
さまざまな作品のキャラに扮する人々

などが集い、近年では、1万6千人もの方が来場されます。当日は、多くのコスプレイヤーが来場され、スタッフもコスプレで会場を盛り上げます。前日にはマンガ家のトークショーや作画ライブなど、マンガ家とファンの距離が近い交流も行われるのも特徴の一つです。



まんが教室の様子

まんが美術館の他にも多くのコミック本を所蔵する「まんが図書館」や、小・中学生を対象とした「まんが授業」、県内在住のマンガ家を講師に迎えた「まんが教室」、熊本地震では復興支援を目的としたラッピング列車の運行など、マンガの力を活かした地域活性化に取り組んでいます。



**湯前まんが地図**